

広島市公文書館

紀要

第五号

都 築 資 料 目 録

目 次

はじめに	2
1 都築名誉教授について	2
2 分類について	3
凡 例	7
I 日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会・ 合同調査団関係 (1945~1947) 1~165	9
II 都築メモ・その他 (1945~1947) 166~184	17
III 被爆者調査票 185~194	18
IV 地 図 195~203	18
V 日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会・ 合同調査団論文 204~254	19
VI 研究及び論文関係 (1952~1960) 255~406	22
VII 都築正男論文原稿・メモ (1952~1958) 407~419	28
VIII 都築正男講演要旨 (1955~1958) 420~446	29
IX 論文・雑誌 (1945~1959) 447~550	30
X 都築正男外科学関係論文 (1925~1957) 551~625	36
XI 写 真 626~645	39
内訳の部	41

はじめに

「都築資料」とは、原爆投下直後、被爆者の治療及び原子爆弾症の総合的かつ科学的な調査研究を行った故都築正男東京大学名誉教授（以下「都築名誉教授」と略す）の一連の資料である。

「都築資料」は、戦後ヒロシマの原点ともいえる資料であり、その一部は『広島新史—資料編Ⅰ』として発刊した（昭和56年3月）。

その際借用した「都築資料」は長男である都築正和東京大学教授に返却したが、その後、まもなく同教授から、広島市で永久に保存し、活用してほしいとの申し出があり、市では、この申し出をありがたく受け入れた。市公文書館に寄贈された「都築資料」が届いたのは、昭和56年7月6日であった。

広島市史にとって、また核時代の今日、現代史にとってもきわめて貴重な「都築資料」が、ヒロシマの地にあって恒久平和の礎となるべく御配慮いただいた都築正和教授に対し、深く感謝の意を表する次第である。

なお、「都築資料」の意義については、『広島新史—資料編Ⅰ』に今堀誠二氏が本来の医学的な「都築資料」に、被爆歴史資料としての社会科学的な価値を与えた解説をされているので参照されたい。

1 都築名誉教授について

「原子爆弾症研究者」としての都築名誉教授については今堀誠二氏の解説に触れられているので、ここでは「都築資料」の中にみられる都築名誉教授のひとりとしての一面を紹介したい。

『週刊読売』（昭和32年3月24日号）の近藤日出造氏との対談記事「近藤日出造 見参 やァこんにちは」の冒頭で、近藤氏は都築名誉教授を次のように評している。「この先生ぐらい時間に厳格な人はあるまい、という評判だ。（中略）時間に対する都築先生のこの観念によって、先生が国際人であることが証明される。そして、いささかもコトをゆるがせにしない科学者であることが立証される。この一事で、医学者としての先生が信用できるのである。」この対談では、手術のこと、原爆症のことをさりげなく語っているが、その話しぶりの中にも都築名誉教授の人間に対する真摯な態度がにじみ出ている。

『学生週報』（昭和32年2月23日号）では、赤尾好夫氏との対談（「医学の道」）で

次のように語っている。「医学というものは、どの方面に進むにしても、結局、人間を相手の学問ということになりますから、宗教家と同じようなことになるかもしれませんね」この言葉には、都築名誉教授の医者としての心がけが示されている。これをさらにはっきり表現したのが、「原子爆弾災害の跡を調べて」（1954年2月5～6日）である。原子爆弾の非人道性を訴えた都築名誉教授は、この中で次のように語っている。「現在、残されている原子爆弾被爆者に向って、今後の人類の幸福のために、その身を犠牲にしてまでもそれ等の資料を集めるために協力せよと直接に要望することは、あまりにも残酷ではあるまいか。被爆生存者の方々は、ここ数年間、あまりにもいためつけられ、さなきだに不安な日常に明け暮れている。宜しく、先ず、同情の心を以て、いたわってあげなければなるまい。たとえ、他覚的の所見がなくとも、すべての苦しみ、あらゆる悩は、愛の心を以て聞いてあげたい。そして調べてあげたい。及ばずながら、苦悩をやわらげるだけのことで治療してあげたい。」

2 分類について

本目録に収録した「都築資料」の総点数は645点である。その内訳は、書簡・葉書53点、論文247点、講演要旨27点、写真19点、雑誌17点、調査票9点、地図9点、その他264点である。

次に分類であるが、資料によっては多様性があり、分類に迷うものもかなりあった。最終的には次の11項目に分類した。

(1) 日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会・合同調査団関係

(1945～1947)

ここには、「広島宇品病院研究打合会・原子爆弾傷者治療対策」（1945年9月1日）をはじめとして、おもに日本学術研究会議原子爆弾災害調査研究特別委員会及び日米合同委員会に関する書簡・覚書・報告書・事務連絡文書などを収めた。なお各研究者の論文および関係資料は(5)へ一括した。

特に、物理学化学地学科会・生物学科会・機械金属学科会・電力通信科会・土木建築学科会・医学科会・農学水産学科会・林学科会・獣医学畜産学科会の九つの分科会から構成される日本学術研究会議原子爆弾災害調査研究特別委員会にて都築名誉教授は、医学科会の会長として精力的な活動を行うとともに同委員会の中

都築資料目録

心的な役割を果たした。しかし、その多くの調査研究報告書は、GHQの規制により公表できなかった。

ここに収めた資料を一覧することによって、占領下における原子爆弾災害調査にまつわるさまざまな状況が明らかとなるであろう。

(2) 都築メモ・その他 (1945～1947)

都築名誉教授の調査メモおよび軍関係の調査報告などを中心に収めた。

都築名誉教授は、原爆災害の実態を学問的に体系づけるために自らの調査はもとより、原爆被爆直後から調査を開始した軍の関係資料収集も積極的に行っている。ここに収めた資料は、原爆災害の生々しい実態を伝える貴重な歴史資料となっている。

(3) 被爆者調査票

被爆者調査票は、原子爆弾が人体に与えた影響を統計的に調査する目的で数多く作成された。これらの調査票には、「原子爆弾が妊婦ト胎児トニ及ボンタ影響調査」と題する調査票を代表例として、多かれ少なかれ遺伝についての調査項目が設けられている。ここに収めた資料を一覧すれば、原爆投下がいかに非人道的であったか明らかとなるだろう。

なお、「都築資料」の中には、このほかに特異な資料として被爆者個人調査票などがある。その内訳は、『岩国海軍病院長報告—原子爆弾—因ル傷者ノ経過概要』(19枚)・『原子爆弾災害調査事項』(昭和20年10月死亡例・170枚、昭和20年10月・439枚、昭和20年10月・500枚、昭和21年5月 1.6～2.0KM・498枚、昭和22年6月・263枚)・『岡山医大、岡山陸病原爆資料』(193枚)・『剖検記録』(21名分)である。

(4) 地 図

都市計画図および市街地図を収めた。

都市復興のための都市計画図までもが都築名誉教授の資料収集の対象となっていたことは、同氏の問題関心が医学者の域を超えていたことをうかがい知るものとして興味深い。

(5) 日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会・合同調査団論文

日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会・合同調査団において各研究者がそれぞれの研究をまとめた論文及び関係資料を収めた。

論文は、医学論文がほとんどだが、物理学論文・化学論文も研究成果としてまとめられている。

ここに収めた論文は、原子爆弾災害に関する初期の調査研究成果であり、以後の調査研究の基礎をなすものとして、当時の調査研究が何に対して関心をもっていたかを知る貴重な資料である。

(6) 研究及び論文関係 (1952~1960)

昭和27年度科学研究費交付金総合研究計画に基づいて、塩田広重博士を代表として組織された原子爆弾災害調査研究班関係一件をはじめとして、その後組織された各種協議会等の関係資料一件や、原爆乙女の渡米治療に関する資料一件及び都築名誉教授を除く各研究者の論文一件を収めた。

(5)に収めた研究成果を基礎として、その後の研究が生みだした数多くの論文がここに収められており、(5)に収められた論文と比較することによって調査研究の時期的な特色がうかがわれ、興味深い。

(7) 都築正男論文原稿・メモ (1952~1958)

都築名誉教授の論文原稿およびメモなどを収めた。

ビキニ事件の起きた年に書かれた資料411は、「ゲタばきにされると困る」から未発表のまま「私の机のひき出しに埋もれてい」たものであり、原子爆弾災害調査に関して都築名誉教授がアメリカ側との交渉を重ねてきた経験が、このような形をとらせたのかもしれない。

(8) 都築正男講演要旨 (1955~1958)

都築名誉教授は数多くの講演を行っているが、その際の講演用の原稿を収めた。27点のいずれにも、200字詰め原稿用紙に演題とその項目がきちんと記入されており、都築名誉教授のものごとをゆるがせにしない姿勢が感じられる。

(9) 論文・雑誌 (1945～1959)

各研究者の論文で雑誌・新聞に発表された論文等を収めた。ただし、次の(10)に収めた論文は除く。都築名誉教授の原爆関係論文及び対談も含まれる。

論文は、GHQの規制により公表できなかったため、ここに収められた資料も、占領の終了以後のものがほとんどである。

論文は、医学論文だけでなく、社会的発言を含んだ論文もあり、都築名誉教授の活躍をものがたる資料となっている。

(10) 都築正男外科学関係論文 (1925～1957)

都築名誉教授の外科学論文58点を収めた。

大正15年の「硬『レントゲン』線ノ生物学的作用ニ関スル実験的研究」は、世界最初に放射線の動物に与える影響を実験的に明らかにしたもので、画期的なものである。また、「肺結核の外科的治療に就て」(昭和14年)をはじめとした一連の研究は、放射線を肺結核の治療に役立てようとしたものであった。都築名誉教授の原子爆弾症研究の経験が肺結核に関する研究に結実したと考えることもできよう。

(11) 写 真

ここには、各種の写真資料を収めた。

写真は、何よりも事実を雄弁にものがたる資料である。

破壊されつくした市街や熱傷(ケロイド)を撮ったものがほとんどであるが、対比の資料として被爆前の広島市の市街を撮ったものもある。そのほかには原爆によって廃墟と化した広島市の街のスケッチを撮ったもの、人体の組織標本写真を収録した。

(広島市公文書館主事補 前 祐司)

凡 例

1. 目録は、資料の性質により11項目に分け、項目ごとに年月日順に並べ、通し番号を記した。

2. 目録の記載方法

(1) 記載事項及び順序は、原則として次のとおりとした。(2)に記したものを除く。)

ア 題名

論文は、その論文名を記した。書簡等は、その題名を記し、題名がない場合は宛名を冠した。

なお、題名だけではわかりにくい場合には、題名の右に内容を()書した。題名がない場合は、当館でこれを設け、適宜()書した。

イ 作成者

資料の作成者がわかるものは、作成者名を記し、不明の場合は、表示を略した。

ウ 浄書

資料のうち、タイプ印刷は、(タイプ)、謄写印刷は、(謄写印刷)、手書きは、(手書)、と記した。

エ 作成年月日

オ 数量

(ア) 資料の数量は、原則として(枚)で記した。

(イ) 同じ資料が2部以上ある場合はその部数も記した。例えば2枚で一つの資料で同一のものが三つあれば(2枚3部)とした。

(ウ) 同じ資料が2種以上ある場合は、その種数も記した。例えば、2枚で一つの資料で部分的に異なったものが三つあれば、(2枚3種)とした。

(エ) 多数の資料が「一つの資料」となっているものは、総合的な件名を(資料名)とし、その点数を(点)として記し、個々の資料については、「内訳」として後記した。なお、該当資料には、(※)を付し、掲載の頁数を数量の右に()書した。

(2) Ⅱの論文・雑誌、Ⅲの都築正男外科学論文の記載事項及び順序は原則として、次のとおりとした。

ア 題名

イ 著者等

著者が都築正男の場合は、原則として表示を略した。

ウ 書名

書名あるいは新聞名を記した。書名を題名とした場合及び刊行物でない場合は、

都築資料目録

表示を略した。

エ 巻号

巻号および、通巻番号を記した。

オ 別刷

別刷等は、() 書した。

カ 出版年月日

キ 数量

原則として(冊)で記した。

3. 分類番号

件名の右端に記した番号のうち、ハイフンより左の番号は、資料のひとかたまりにつけた番号であり、右の番号は、その中に収録されている順番を示す。なお、同一資料が複数に存在する場合も、資料の集中を行わず、都築家で保存されていた形態を重視して分類したため、一つの資料に複数の番号がついたものがある。

I 日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会・合同
調査団関係 1945~1947

- | | | | | |
|----|---|------------|------|--------------|
| 1 | 広島宇品病院研究打合せ・原子爆弾傷者治療対策（手書） | 1945. 9. 1 | 12枚 | 14—1 |
| 2 | 指令（アメリカ調査団について） HAROLD FAIR（英文タイプ） | 1945. 9. 7 | 1枚 | 19—1 |
| 3 | 覚書（学術報告書刊行の件） 都築正男（手書） | 1945.10. 9 | 1枚 | 08—1 |
| 4 | Atomic Bomb Investigation H. W. Allen Commanding General, Sixth Army APO 442（英文タイプ） | 1945.10.12 | 1枚3部 | 18—1
19—2 |
| 5 | Investigation Travel Order（都築正男宛） R. W. BOLLING（英文タイプ） | 1945.10.14 | 1枚 | 19—3 |
| 6 | NAMES AND ADDRESS OF ATOMIC BOMB COMMISSION（英文タイプ） | 1945.10.19 | 1枚 | 19—4 |
| 7 | the Atomic Bomb Casualties at NAGASAKI, Motosaburō MASUYAMA | 1945.11. 1 | 図1枚 | 09—4 |
| 8 | 都築正男の旅行証明書 R. T. O. KYOTO-STATION MAJ. CAMPBELL（英文タイプ） | 1945.11. 7 | 1枚 | 05—38 |
| 9 | 都築正男への旅行命令書 GHQ・U.S・ARMY FORCES, PACIFIC（英文タイプ） | 1945.11. 7 | 1枚2部 | 11—6 |
| 10 | Relief Board For Veterans GHQ・SCAP（謄写印刷） | 1945.11.13 | 1枚 | 08—18 |
| 11 | 軍事保護院ニ関スル件 連合国最高司令部（謄写印刷） | 1945.11.13 | 1枚 | 08—17 |
| 12 | 都築教授宛メモ 福井信立 | 1945.11.17 | 1枚 | 11—10 |
| 13 | Imperial Japanese Army and Navy Hospitals GHQ・SCAP（謄写印刷） | 1945.11.19 | 1枚 | 08—19 |
| 14 | 京都帝国大学原子爆弾災害調査班殉職者追悼記念講演会（プログラム・メモ・レジュメ）（謄写印刷） | 1945.11.19 | 1枚 | 14—2 |
| 15 | 京都帝国大学原子爆弾災害調査班殉職者追悼記念講演会（プログラム・メモ・レジュメ） | 1945.11.19 | 9枚 | 14—2 |
| 16 | 治療用ラジウム塊1個の預証（都築教授宛）喜多島健磨（広島県衛生課長）（手書） | 1945.11.26 | 1枚 | 08—21 |
| 17 | 原子爆弾災害調査研究特別委員会報告会速記録 学術研究会議 | 1945.11.30 | 2冊 | 07—24 |

都築資料目録

- 18 原子爆弾災害調査研究特別委員会第一回報告会速記録 学術研究会議
1945.11.30 1冊 27—10
- 19 都築正男宛葉書 片岡純夫 (広島高師附属中学校科学々級4年生)
1945.11 1枚 08—27
- ※ 20 原子爆弾災害調査研究特別委員会関係資料 1945.11 14点 (41頁) 08—29
- 21 都築正男宛原子爆弾災害調査研究特別委員会発令 (9月14日) 連絡書
林春雄 (謄写印刷) 1945.12.12 1枚 08—15
- 22 都築正男宛書簡 舟岡省五 1945.12.13 2枚 08—11
- 23 都築正男宛書簡 石川教雄 1945.12.17 2枚 08—12
- 24 都築正男宛書簡 神中正一 1945.12.19 2枚 08—10
- 25 原子爆弾災害調査研究報告会演題 (メモ) 1945.12.19 3枚 08—16
- 26 原子爆弾災害調査研究報告会演題 (謄写印刷) 1945.12.19 1枚 13—3
- 27 原子爆弾災害調査研究報告会演題・記録 (メモ) 1945.12.19 11枚 13—3
- 28 The Works of the Medical Section of the Special Committee for the
Effects of the Atomic Bomb the National Research
Council in Japan (英文タイプ) 1945.12.19 2枚4部 17—64
18—19
- 29 Medical Work on Atomic Bomb Casualties A.W.Schwichtenberg
(英文タイプ) 1945.12.22 1枚3部 17—54
18—18
- 30 都築教授宛メモ 三宅 1945.12.22 1枚 13—1
- 31 都築正男宛書簡 松林鎭三 1945.12.25 1枚 06—10
- 32 THE LIST OF THE PAPERS BY JAPANESE AUTHORS The Japanese
Government Group. Joint Commission for the Investigation of the
Effects of the Atomic Bomb in Japan (英文タイプ) 1945.12 15枚 17—55
- 33 放射線病の臨床 (手書) 1945.12 3枚 14—3
- 34 米國調査団隨行助手名簿 (謄写印刷) 1枚 08—23
- 35 原子爆弾災害調査診療班名簿 (東京帝国大学医学部) (謄写印刷)
1枚 08—24
- 36 「原子爆弾ノ学術的調査」製作ノ主旨ト方法、予想サレル映画ノ構成
加納龍一 (日本文タイプ) 3枚 08—26
- 37 Masao Tsuzuki 宛書簡 A.W. OUGHTERSON (英文タイプ)
1946. 1.17 2枚 19—5
- 38 原子爆弾災害調査研究報告会 (第二回) 演題
(謄写印刷) 1946. 1.23 1枚2種 08—5
13—4
- 39 原子爆弾災害調査研究報告会 (第二回) メモ (手書) 1946. 1.23
10枚 08—5
- 40 原子爆弾災害調査研究報告会 (第二回) メモ (手書) 1946. 1.23
7枚 13—4

都築資料目録

- | | | | |
|----|--|---------|-------------------------|
| 41 | 戦災被害調査 広島市調査課 (謄写印刷) 1946. 1. 26 | 8 枚 | 08—9 |
| 42 | Dr. Tsuzuki 宛書簡 Oughterson (英文手書) 1946. 2. 1 | 1 枚 | 19—6 |
| 43 | 広島市・長崎市ニ於ケル原子爆弾ニヨル土壤ノ放射線化学的研究
(木村健二郎以下四名) 横内記 (手書) 1946. 2. 9 | 2 枚 | 08—4 |
| 44 | 原子爆弾災害調査研究報告会 (第三回) 演題 (謄写印刷)
1946. 2. 16 | 1 枚 3 部 | 08—25
13—5 |
| 45 | 原子爆弾災害調査研究報告会 (第三回) メモ (手書) 1946. 2. 16 | 7 枚 | 13—5 |
| 46 | Col. A. W. Oughterson 宛書簡 Dr Masao Tsuzuki
(英文タイプ) 1946. 2. 25 | 2 枚 | 19—7 |
| | Col. A. W. Oughterson 宛書簡 Dr Masao Tsuzuki
(英文タイプ) 1946. 2. 25 | 1 枚 | 17—63 |
| 47 | The Investigation of the Effects of the Atomic Bomb by the National
Research Council in Japan Dr Masao Tsuzuki
(英文タイプ) 1946. 2. 25 | 1 枚 7 部 | 17—56
18—17
20—15 |
| 48 | Medical Work on Atomic Bomb Casualties J. I. MARTIN (Brigadier
General, USA Chief Surgeon) (英文タイプ) 1946. 2. 27 | 1 枚 3 部 | 17—57 |
| 49 | G-2 (Col. Munson) 宛 都築などの調査継続その他 GHQ·USAF Chief
Surgeon (英文タイプ) 1946. 2. 27 | 1 枚 2 部 | 19—8 |
| 50 | G-2 宛 都築正男研究継続の件 GHQ·USAF·OFFICE OF THE CHIEF
SURGEON (英文タイプ) 1946. 2. 27 | 1 枚 | 11—7 |
| 51 | 学研特別委員会第二回報告会メモ 1946. 2. 28 | 10 枚 | 14—5 |
| 52 | 原子爆弾災害調査研究特別委員会第二回報告会速記録
学術研究会議 1946. 2. 28 | 1 冊 | 07—25 |
| 53 | Col. A. W. Oughterson 宛 都築正男書簡草稿 (英文手書) 1946. 2
4 枚 | | 08—6 |
| 54 | 原子爆弾災害調査研究報告会 (第四回) 演題 (手書) 1946. 3. 2 | 1 枚 | 08—7 |
| 55 | 原子爆弾災害調査研究報告会 (第四回) (メモ) 1946. 3. 2 | 5 枚 | 08—7 |
| 56 | 原子爆弾調査研究報告会 (第四回) 演題 (謄写印刷) 1946. 3. 2 | 1 枚 2 部 | 13—6 |
| 57 | 原子爆弾調査研究報告会 (第四回) (メモ) 1946. 3. 2 | 5 枚 | 13—6 |
| 58 | 原子爆弾による災害に就いて (都築正男講演筆記) 植木記
(原稿) 1946. 3. 5 | 37 枚 | 17—36 |
| 59 | 原子爆弾ニヨル災害ニ就テ (都築正男講演筆記) 若林記
(原稿) 1946. 3. 12 | 51 枚 | 17—37 |

部築資料目録

60	原子爆弾災害調査研究報告書目録 (附録) (原稿)	1946. 3	24枚	27—2
61	原子爆弾災害調査研究報告 学研原爆災害調査研究特別委員会	1946. 3	6冊	17—2 27—1 42—13
62	MONTHLY REPORT Dr. Masao Tsuzuki (英文タイプ)	1946. 4. 1	1枚	13—8
63	MONTHLY REPORT Dr. Masao Tsuzuki (英文タイプ)	1946. 4. 1	3枚	20—5
64	Colonel Crawford Sams 宛書簡 A. A. LIEBOW (英文タイプ)	1946. 4. 16	1枚	19—9
65	MONTHLY REPORT (英文タイプ)	1946. 5. 1	2枚	20—6
66	黒川巖宛書簡 後藤敏夫	1946. 5. 6	2枚	11—9
67	MONTHLY REPORT Dr. Masao Tsuzuki (英文タイプ)	1946. 6. 1	2枚 3部	17—58
	MONTHLY REPORT (英文タイプ)	1946. 6. 1	2枚	20—7
68	原子爆弾災害調査研究報告会演題 (謄写印刷)	1946. 6. 15	1枚	11—2
69	原子爆弾災害調査研究報告会 (原稿)	1946. 6. 15	8枚	11—2
70	原子爆弾災害調査研究報告会 (メモ)	1946. 6. 15	2枚	11—2
71	広島及長崎ニ於ケル原子爆弾爆撃ノ効果 (一部分の翻訳) 合衆国戦略爆撃調査団 (手書)	1946. 6. 19	7枚	16—4
72	The Effects of the Atomic Bombing of Hiroshima and Nagasaki The United States Strategic Bombing Survey (英文手書)	1946. 6. 19	80枚	19—28
73	The Joint Commission 宛連絡 Dr. Masao Tsuzuki (英文タイプ)	1946. 6. 25	1枚 3部	17—58 20—8
74	Business Report of Research Institutes etc. Dr. Masao Tsuzuki (英文手書)	1946. 7. 1	3枚	17—59
75	Masao Tsuzuki 宛書簡 A. W. OUGHTERSON (英文タイプ)	1946. 7. 16	1枚 2部	19—10
76	M. Tsuzuki 宛書簡 Stafford Warren (手書)	1946. 8. 8	1枚	19—11
77	Col. Oughterson 宛書簡 Masao Tsuzuki (英文タイプ)	1946. 8. 24	1枚 3部	17—60 18—20 19—12
78	Col. Stafford Warren 宛書簡 M. TSUZUKI	1946. 8. 24	1枚 2部	19—13
79	Col. A. W. Oughterson 宛書簡 Dr. Masao Tsuzuki (英文手書)	1946. 8. 24	3枚	17—61

- 80 Memo fr O ch Surgeon dtd 27 Feb 46 authorizing Dr. Tsuzuki and party
to enter Hiroshima and Nagasaki ALBERT R. DREISBACH
(英文タイプ) 1946. 8.30 1枚3部 19—24
- 81 MONTHLY REPORT Dr. Masao Tsuzuki
(英文タイプ) 1946. 9. 1 2枚 17—62
- 82 MONTHLY REPORT (英文タイプ) 1946. 9. 1 2枚 20—9
- 83 Dr. Tsuzuki 宛書簡 A. W. Oughterson (英文タイプ) 1946.11. 8
1枚 19—14
- 84 (米国医師の調査団来広、日赤など視察)
『夕刊ひろしま』 1946.12. 7 1枚 15—14
- 85 Statistical Observation on Keloids Dr. Tsuzuki
(英文タイプ) 1946.12.28 4枚 07—5
- 86 ATOMIC BOMB CASUALTY COMMISSION Report No. 1
(英文タイプ) 1046.11.22~30 9枚 19—25
- 87 ATOMIC BOMB CASUALTY COMMISSION Report No. 5
(英文タイプ) 1946.12.22~28 6枚 19—26
- 88 広島市調査票 原子爆弾ガ妊婦ト胎児トニ及ボシタ影響調査
(松林鎔三案 三谷助教訂正) 学術研究会議 1946.12.31 1枚 06—9
- 89 REPORT OF THE MEDICAL STUDIES ON THE ATOMIC BOMB
Dr. MASAO TSUZUKI (英文タイプ) 1946 55枚 19—29
- 90 連合国軍指令第三号に依る半年研究報告の様式改正に就て
文部省科学教育長 (謄写印刷) 1946 7枚 17—22
- 91 原爆調査記入注意 広島市保健課 (謄写印刷) 1枚3部 06—15
- 92 (死産数)メモ 1946. 1~ 8 1枚 06—2
- 93 (昭和21年中の妊娠届出・出産・未出生・分娩予定数一覧表) (広島市)
(手書) 1枚 06—8
- 94 昭和二十年八月六日原子爆弾による広島市民の人的被害等調査統計書
広島市役所調査課 (手書) 7枚 17—12
- 95 STATISTICS OF DAMAGES CAUSED BY ATOMIC BOMBARDMENT
FOREIGN AFFAIRS SECTION, HIROSHIMA CITY
(謄写印刷) 1945. 8. 6 5枚 17—17
- 96 広島県妊産婦手帳 1部 06—1
- 97 Statistics on Hiroshima City (謄写印刷) 4枚 17—16
- 98 日本医師会調査症例 草間指導部長 (メモ) 1枚 06—4
- 99 OFFICIAL REPORT OF THE MEDICAL SECTION
Dr. M. TSUZUKI (英文タイプ) 1947. 1. 2 3枚2部 18—2
- 100 OFFICIAL REPORT OF THE MEDICAL SECTION
Dr. M. TSUZUKI (英文手書) 1947. 1. 2 8枚 18—2

都築資料目録

- 101 ATOMIC BOMB CASUALTY COMMISSION Report No. 6
(英文タイプ) 1946.12.30~1947. 1. 4 2枚 19—27
- 102 Colonel H Johnson 宛連絡 AUSTIN M. BRUES, PAUL S. HENSHAW
(英文タイプ) 1947. 1. 5 1枚2部 18—4
19—30
- 103 Dr. Tsuzuki 宛連絡 Austin M. Brues, Paul S. Henshaw. (英文タイプ)
1947. 1. 5 2枚2部 18—3
19—33
- 104 昭和二十二年度文部省科学研究費による研究の中 特別委員会について
学術研究会議会長 (謄写印刷) 1947. 1.10 1枚 15—1
- 105 (学術論文発表の件) 都築正男 (謄写印刷) 1947. 1.15 1枚2部 15—5
- 106 原子爆弾災害調査研究報告を日新医学誌上に発表する方式についての原案
日新医学編輯部 小山田 (手書) 1947. 1.16 2枚 17—43
07—8
16—2
- 107 原爆の影響調査の動機・経過および報告書刊行をめぐる状況の概要
PREFACE (英文タイプ) 1947. 1 4枚5部 18—5
20—14
- 108 原爆の影響調査の動機・経過および報告書刊行をめぐる状況の概要
PREFACE (手書) 1947. 1 12枚 16—2
- 109 原子爆弾災害調査研究成績 都築正男 (原稿) 1947. 1 19枚 17—39
- 110 都築正男宛書簡 菅尾真登 (広島市役所調査課) 1947. 1.21 2枚 06—6
- 111 昭和20年8月6日原子爆弾による人的被害報告統計表・送り状
広島市役所 (手書) 1947 3枚 06—7
- 112 昭和二十年八月六日原子爆弾ニヨル人的被害報告調査表
(昭和二十一年八月十日調) (謄写印刷) 1枚2部 06—13
- 113 都築正男宛書簡 松林鎔三 (広島市役所保健課長) 1947. 1.29 2枚 06—3
- 114 都築正男宛書簡 菅尾真登 1947. 2. 6 2枚 06—5
- 115 The Special Committee for the Investigation of the Effects of the Atomic
Bomb Masao Tsuzuki (英文タイプ) 1947. 2.10 3枚4部(2部は一部欠) 18—6
- 116 昭和二十一年度の研究費の追加について
亀山直人(学術研究会議会長代理)(謄写印刷) 1947. 2.27 1枚 17—40
- 117 科会長宛連絡 林春雄 (手書) 1947. 2 1枚 15—2
- 118 (福田得志宛連絡下書) 都築正男 (手書) 1947. 3.12 2枚 17—42
- 119 (都築正男宛依頼状、研究費援助の件)
福田得志(九州帝国大学医学部長)(タイプ) 1947. 3.14 3枚 17—41
- 120 Bibliography on Wound Healing and Tissue Repair Capt. Block
(英文タイプ) 1947. 3.17 3枚 07—13

- 121 Keloid 研究小委員会（仮称）第一回会議概要（原稿） 1947. 3.18
5枚 07—2
- 122 Exemption of TSUZUKI Masao from Provision of SCAPIN 550
COURTNEY WHITNEY（英文タイプ） 1947. 3.24 1枚5部 18—7
19—31
- 123 第十部関係報告書（農産物ニ対スル被害） 雨宮育作
（原稿） 1947. 3.29 9枚 17—31
- 124 学研・原子爆弾災害調査研究特別委員会第三回総会の案内状他 4枚 17—44
- 125 The Report of the 3rd General Meeting of the Special Committee for the
Investigation of the Effects of the Atomic Bomb
Dr. M. TSUZUKI（英文タイプ） 1947. 4. 7 5枚2部 17—23
- 126 The Report of the 3rd General Meeting of the Special Committee for the
Investigation of the Effects of the Atomic Bomb
Dr. M. TSUZUKI（英文タイプ） 1947. 4. 7 6枚 17—21
- 127 ON THE BLAST WAVE CAUSED BY THE ATOMIC BOMB
Kiyoshi KANAI（英文タイプ） 1947. 4. 7 1枚 17—28
- 128 The Reports of the Studies on the Medical Effects of the Atomic Bomb,
at the 12th Japanese Medical Congress NATIONAL RESEARCH
COUNCIL OF JAPAN（英文タイプ） 1947. 4.1~7 2枚3部 18—13
20—12
- 129 第十二回日本医学会分科会に於ける原爆災関係講演（一覧表）（手書）
2枚 15—12
- 130 都築正男宛依頼状 福田得志（タイプ） 1947. 4. 8 1枚 17—45
- 131 Haruo Hayashi 宛書簡 Detlew W. Bronk
（英文タイプ） 1947. 4.10 1枚2部 18—16
19—32
- 132 OFFICIAL REPORT OF THE MEDICAL SECTION.
Dr. MASAO TSUZUKI（英文タイプ） 1947. 4.11 4枚2部 20—1
- 133 医学領域に於ける原子爆弾災害調査研究成績の発表に就て
都築正男（謄写印刷） 1947. 4.12 1枚 17—46
- 134 医学領域に於ける原子爆弾災害調査研究成績の発表に就て
都築正男（手書） 1947. 4.12 2枚 17—46
- 135（研究成績発表につき連絡） 都築正男（謄写印刷） 1947. 4.19
1枚 17—47
- 136 Request for Certificate From P-6 GORDON E. DEVILLE
（英文タイプ） 1947. 4.24 1枚 19—15
- 137 Keloid 研究小委員会（仮称）第二回会議概要（原稿） 1947. 4.25
7枚 07—3
- 138 広島原子爆弾症に起因する「ケロイド」に就て（第二報） 鶴田登代志・
安藤三（京都帝国大学医学部整形外科教室）（手書） 4枚 17—4

都築資料目録

- 139 長崎に於ける原子爆弾受傷の外科的後遺症に就て 濱崎元・森俊夫・辻泰
邦(長崎医科大学調外科教室) (手書) 3枚 17—5
- 140 長崎に於ける原子爆弾受傷の外科的後遺症に就て 濱崎元・森俊夫・辻泰
邦(長崎医科大学調外科教室) 図2枚 17—5
- 141 Travel Order IRVIN W. ROGER (英文タイプ) 1947. 5. 7
1枚3部 19—16
- 142 原子爆弾ガ森林ニ及ボス影響(中間報告書) 三浦伊八郎(林学科会長)
(原稿) 1947. 5. 9 6枚 17—30
- 143 On the shock waves of finite amplitude 田中清(東京帝国大第一工学部
土木教室) (手書) 1947. 5.10 3枚 17—29
- 144 科学試験研究協議会に提案された課題の連絡について 大森慶太(科学試
験研究協議会第三部会長) (タイプ) 1947. 5.15 1枚 17—48
- 145 Address at the Press Conference at Nagasaki Capt. Warren
(英文タイプ) 1947. 5.27 2枚 19—17
- 146 Shirabe Kyoju 宛書簡 TSUZUKI MASAO
(ローマ字タイプ) 1947. 5.28 1枚 17—18
- 147 Keloid 研究小委員会第三回会議概要 (原稿他) 1947. 6. 5 9枚 07—4
- 148 GENETIC INVESTIGATION ON VICTIMS OF ATOMIC BOMBS
(英文タイプ) 1947. 6. 5 1枚 17—19
- 149 原子爆弾被害者遺伝調査計画概要(厚生省予防局にて)
(謄写印刷) 1947. 6. 5 1枚 17—48
- 150 BUSINESS REPORT Dr. M. Tsuzuki (英文タイプ) 1947. 6. 7
6枚 20—2
- 151 Col. Harry G. Johnson 宛書簡 MASAO TSUZUKI
(英文タイプ) 1947. 6. 9 2枚2部 18—8
20—13
- 152 Reference Request from Dr. M. TSUZUKI for Further Studies of
Atomic Bomb Casualties and Permission to make certain Statements
in Newspapers HARRY G. JOHNSON (英文タイプ) 1947. 6.12
1枚3部 19—18
- 153 科学試験研究協議会に提出された課題の連絡について(草案)
都築正男 (手書) 1947. 6.13 1枚 17—49
- 154 Dr. Kelly 宛 (Note) (英文タイプ) 1947. 6.14 1枚 20—3
- 155 Station Master 宛(証明) HARRY G. JOHNSON (英文タイプ)
1947. 6.20 1枚 19—19
- 156 (都築正男の旅行証明)(Conrad Jonik) (英文タイプ) 1947. 6.20
1枚 19—20
- 157 ABSENCE AND TRAVEL AUTHORITY IRVIN W. ROGERS
(英文タイプ) 1947. 7. 2 3枚 19—21

158	(都築正男旅行証明) JERRY W. TOM (英文タイプ) 1947. 7. 7	1枚4部	19—22
159	Revocation of Authority to Retain TSUZUKI Masao Courtney Whitney (英文手書) 1947. 7. 16	1枚	19—23
160	原爆災害調査報告会の概要 (手書) 1947. 7. 23	3枚	07—20
161	Report of the Medical Study on the Atomic Bomb Effects, written by Japanese Investigators (英文タイプ) 1947. 7. 31	1枚	20—10
162	広島ニ於ケル原子爆弾後胎症調査報告 三浦兵庫(東京帝国大学医学部眼 科学教室)(原稿) 1947. 7	2枚	07—16
163	(原災研辞任の連絡) 都築正男 (原稿) 1947. 8. 15	4枚	17—50
164	(原災研辞任の連絡) 都築正男 (謄写印刷) 1947. 8. 15	1枚	17—50
165	(学術論文発表の件) 都築正男 (謄写印刷) 1947	1枚2部	15—6

II 都築メモ・その他 1945~1947

166	(論文正誤につき連絡) Dr. M. Tsuzuki (英文タイプ)	1枚	20—16
167	(都築正男調査メモ) (手書)	46枚	05—39
168	(研究報告・調査関係メモ) (手書)	7枚	08—8
※169	(都築正男私的メモ・書類)	17点(41頁)	08—28
170	(都築論文写真説明など) (手書)	5枚	09—8
※171	(広島・長崎調査メモ)	17点(42頁)	09—10
172	(調査関係メモ) (手書)	4枚	11—11
※173	原子爆弾災害公報	25点(42頁)	13—9
※174	新型爆弾ニ依ル長崎戦災状況ノ件報告	5点(43頁)	13—10
※175	原子爆弾熱傷ニ就テ	33点(43頁)	13—11
※176	Autopsy case (Dr. M. Miyake)	3点(45頁)	13—12
※177	Autopsy cases	2点(45頁)	13—13
※178	原子爆弾災害報告・調査・新聞記事	35点(45頁)	13—14
※179	(呉鎮守府報告書の筆写)	12点(46頁)	14—4
180	長崎県原子爆弾災害調査費 (手書)	3枚	17—13
※181	西山調査関係	14点(46頁)	17—21
182	Carcinogenic Action of some Substances which may be a Problem in Certain Future Industries Austin M. Brues, Hermann Lisco, Miriam Finkel (英文タイプ)	12枚	17—34
※183	(調査・研究メモ)	17点(47頁)	17—35

※184 学研原爆災害調査研究特別委員会書類・學術体制刷新委員会書類
8点(48頁) 17—51

Ⅲ 被爆者調査票

185	(英文原案草稿) 日本學術研究会議 (英文手書)	3枚	06—11
186	昭和二十年八月六日原子爆彈による被害状況調 日本學術振興會 (謄写印刷)	1枚7部	06—17
187	(原子爆彈ガ妊婦ト胎児トニ及ボシタ影響調査) 學術研究会議 (謄写印刷)	1枚5部	06—18
188	(個人調査票) (謄写印刷)	1枚13部	06—19
189	原子爆彈災害調査事項 JOINT COMMISSION (謄写印刷) (日本語(小))	1枚5部	08—13
	原子爆彈災害調査事項 JOINT COMMISSION (謄写印刷) (日本語(大))	1枚2部	08—13
190	原子爆彈災害調査事項 JOINT COMMISSION (謄写印刷) (英文)	1枚10部	08—13 11—3
191	QUESTIONNAIRE ATOMIC BOMB SURVIVORS WHO SUSTAINED BURNS (英文タイプ)	2枚6部	15—7
	QUESTIONNAIRE ATOMIC BOMB SURVIVORS WHO SUSTAINED BURNS (英文タイプ)	4枚2部	17—53
192	原子爆彈熱傷者調査表 (謄写印刷)	2枚3部	15—9
193	QUESTIONNAIRE-CONTROL GROUP OF BURNS (英文タイプ)	3枚2種5部	15—8 17—53
194	原子爆彈災害調査委員会(書類)	11枚7部	63—7

Ⅳ 地 図

195	長崎市街地図 大塚運象発行 1928.11.1	1枚	09—7
196	CITY PLAN NAGASAKI AREA (1 : 17500)	1枚	09—5
197	長崎市街案内図 長崎文学社発行 1946.9.1	2枚	17—21 09—6
198	広島復興都市計画街路網・公園配置図(縮尺二万分ノ一) 広島市共済組合発行 1946.12	1枚	06—14
199	(広島市地図)	1枚	11—4
200	広島都市計画街路網図(2万分之1) 児玉商事合資会社発行	1枚	17—11

201 (NAGASAKI)		1枚	18—14
202 最新精密長崎市街地図	長崎観光出版社発行 1951.12.10	1枚	47—34
203 (NAGASAKI) 青焼		1枚	17—14

V 日本学術研究会議原子爆弾災害調査特別委員会・合同
調査団論文

204 広島地区原子爆弾罹災調査成績 (手書草稿)	東京帝国大学医学部診療班	1枚	06—12
205 Report of the Medical Survey on the Atomic Bomb Effects at Hiroshima Medical Party, Tokyo Imperial University (英文タイプ)		8枚3部	07—1 18—2 20—11
206 The Results of the Examination of the Surviving Sufferers in the City of Hiroshima, in Nov. 1945 The Medical Parties, Tokyo Imp. Univ. (英文手書)		1枚	07—7
207 Report of the Survey at Hiroshima 1946.6.18→6.30 Medical Party, Tokyo Imperial University (英文手書)		11枚	07—18
208 原子爆弾放射線病の臨床 佐々貫之		1冊	17—3
209 原子爆弾傷の病理解剖 病理組織学と病理 (未定稿) 木下良順・三宅仁 (謄写印刷)		1冊	18—15
210 PATHOLOGICAL ANATOMY AND HISTOLOGY OF THE ATOMIC BOMB INJURY, AND ITS PATHOLOGY Edited by Dr. RYOJUN KINOSHITA, MASASHI MIYAKE (謄写印刷)		21枚	06—16
211 PATHOLOGICAL ANATOMY AND HISTOLOGY OF THE ATOMIC BOMB INJURY, AND ITS PATHOLOGY RYOJUN KINOSHITA, MASASHI MIYAKE (謄写印刷)		21枚	10—3
212 PATHOLOGICAL ANATOMY AND HISTOLOGY OF THE ATOMIC BOMB INJURY, AND ITS PATHOLOGY Edited by Dr. RYOJUN KINOSHITA and Dr. MASASHI MIYAKE (手書)		40枚	16—1
213 Medical Report of the joint Commission for the Investigation of the Effects the Atomic Bomb in Japan Vol. 4 Pathology (Section 8) (手書)		28枚	10—4
214 広島市内ニ於ケル集団の原子爆弾災害状況 (昭和二十年十二月調査) (手書)		1枚	07—6
215 癍痕「ケロイド」ニ就テノ日本文献 (手書)		2枚	07—14
216 広島市に於ける原子爆弾災害調査報告 第三年目に於ける放射線病患者に 関する調査研究 中尾晋久・三好和夫・加藤周一 (手書)		2枚	07—19

都築資料目録

217	第一期(早期)ニ於ケル原子爆弾傷ノ発生及ビ経過 (原稿)	70枚	08—2
218	(脈搏・体温表 1945. 8~9)	図7枚	08—3
219	On the late radiation sickness by the atomic bomb Shunzo Yamazaki (英文タイプ)	4枚2部	08—22
220	A Classification of the granulation tissues of the burns in the third degree (Dr. Uchida) (手書)	1枚	07—15
221	Preliminary Report Concerning Observations of Burn Scars of Atomic Bomb Survivors (英文タイプ)	2枚	07—21
222	Considerations in the Study of Burn Sequelae in Atomic Bomb Survivors Capt. Block (英文タイプ)	4枚	07—22
223	Considerations in the Study of Burn Sequelae in Atomic Bomb Survivors Capt. Block (日本文手書)	1枚	07—22
224	Differential Counts of the White Blood Cells (Nishiyama Districts, Nagasaki) by Lt Block, examined in August, 1946 (英文タイプ)	1枚2部	17—15
225	広島地区等死亡率線 (生存者ニ就テノ放射能傷及ビ射熱傷ノ分布) Dr. M. Tsuzuki (地図)	1枚	08—20
226	Medical Report on Atomic Bomb Casualties and Damages Dr. Masao Tsuzuki (英文タイプ)	4枚	10—2
227	REPORT ON THE MEDICAL STUDIES OF THE EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB Dr. Masao Tsuzuki (手書)	141枚	15—13
228	REPORT ON THE MEDICAL STUDIES OF THE EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB Dr. Masao Tsuzuki (英文タイプ)	54枚	16—3
229	REPORT ON THE MEDICAL STUDIES OF THE EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB Dr. Masao Tsuzuki (英文タイプ)	70枚	16—3
230	Condition of the skin Scars, caused by the Atomic Bomb Injuries Dr. Pearce and Dr. Tsuzuki (手書)	4枚	17—6
231	Report of the Medical Survey on the Atomic Bomb Effects at Hiroshima Masao Tsuzuki (英文タイプ)	8枚	18—12
232	The List of the Reports which are desirable to be published by the Authors Masao Tsuzuki (英文タイプ)	2枚	20—4
233	Stochastic studies on the atomic bomb casualties at Hiroshima Motosaburo Masuyama (英文タイプ)	2枚2種	09—3
234	Stochastic studies on the atomic bomb casualties at Hiroshima Motosaburo Masuyama (英文タイプ)	3枚2種	09—3
235	原子爆弾熱射ニヨル瘰癧組織ノ臨床的及ビ病理組織学的研究 梶谷環・石橋幸雄(東京帝国大学医学部都築外科教室)(手書)	8枚	10—1

236	(化学関係論文)「薬学、落合教授ヨリ」の加筆あり(原稿)	3枚	11—1
237	広島原子爆弾熱射線痕組織ノ臨床的並ニ病理組織学的研究 (含、白血球数ト受傷距離) 石橋幸雄 (手書)	4枚	13—2
238	第二章 原子爆弾ニヨル災害ノ状況(原稿)	3枚	13—7
239	研究特別委員会科会構成調書(昭和22年度)(東京帝国大学農学部) (手書)	2枚	15—3
240	Pathology of the Atomic Bomb Injury Kinoshita and Miyake (手書)	16枚	15—4
241	都築教授宛書簡 入江英雄 (手書)	1枚	17—20
	都築教授宛書簡 入江英雄 (英文タイプ)	2枚	17—20
242	広島市に於ける原子爆弾被爆に因るケロイドの研究 玉川忠太(広島県立医科大学病理学教室)(謄写印刷)	1枚	17—7
243	A Study of Keloids Due to Exposure to the Atomic Bomb Chuta Tamagawa, Gen Katsube (英文タイプ)	6枚	17—8
244	A Study of Keloids Due to Exposure to the Atomic Bomb in Hiroshima City Chuta Tamagawa, Terufumi Sasaki, Komanosuke Yokoyama (英文タイプ)	5枚	17—9
245	A Study of Keloids Due to Exposure to the Atomic Bomb in Hiroshima Chuta Tamagawa (英文タイプ)	15枚	17—10
246	原子爆弾の熱輻射線による木材の「焦げ」について 木村一治・阿久津寿一・田島英三 (手書)	2枚	17—24
247	長崎市の残留放射能に就いて 篠原健一 (手書)	2枚	17—25
248	長崎市に於ける原子爆弾投下後の地下水の化学組成 木村健二郎・野口喜三雄・上野精一 (手書)	2枚	17—26
249	広島市に於ける原子爆弾投下後の地下水の化学組成 木村健二郎・野口喜三雄・上野精一 (手書)	2枚	17—27
250	原子爆弾災害調査研究特別委員会第一次研究概報 学術研究会議 (謄写印刷)	48枚	17—38
251	The Radioactivity of the Atomic Bomb From the Medical Point of view Dr. Masanori Nakaidzumi (英文タイプ)	7枚	18—9
252	The Radioactivity of the Atomic Bomb From the Medical Point of view Dr. Masanori Nakaidzumi (英文タイプ)	10枚3部	18—9
253	(Dr. Shigeru Mitani の1941年5月の論文抜書など)	7枚	18—10
254	An Information about the Special Committee for the Investigation of the Effects of the Atomic Bomb, NRCJ (英文タイプ)	2枚3部	18—11

VI 研究及び論文関係 1952~1960

- | | | | |
|-----|--|------|---------------|
| 255 | SYMPOSIUM OF EXPOSED SURVIVORS
(英文タイプ) 1952. 3. 28 | 24枚 | 27—9 |
| 256 | 原子爆弾災害調査班に就て 都築正男 (謄写印刷) 1952. 6. 30 | 3枚2部 | 47—3
56—10 |
| 257 | 原子爆弾災害調査研究班に就て 都築正男 (原稿) 1951, 1952 | 10枚 | 12—1 |
| 258 | 科学研究費交付金総合研究計画調書 (手書) | 14枚 | 47—1 |
| 259 | 原子爆弾災害調査研究班名簿 (謄写印刷) | 1枚 | 47—2 |
| 260 | 原爆被爆者診療成績 (大竹町にて) (謄写印刷) 1952. 8 | 6枚 | 56—7 |
| 261 | 原子爆弾災害調査研究班第一回会議開催通知 塩田広重
(謄写印刷) 1952. 8. 25 | 1枚 | 47—4 |
| 262 | 原子爆弾災害調査研究班第一回協議会(会議の概要メモ)
(手書) 1952. 9. 29 | 10枚 | 56—1 |
| 263 | 広島医科大学の原爆調査研究課題 (謄写印刷) 1952. 9. 29 | 1枚 | 47—5 |
| 264 | 長崎医科大学の原爆調査研究課題 (謄写印刷) 1952. 9. 29 | 1枚 | 47—6 |
| 265 | ABCC AUTOPSY PROTOCOL (英文タイプ) 1952. 9. 29 | 10枚 | 56—2 |
| 266 | PERSONS EXPOSED TO A-BOMB BY PLACE OF EXPOSURE, SEX
AND PRESENT RESIDENCE
(1950 10. 1 by National Census) ABCC (英文タイプ) | 8枚 | 56—3 |
| 267 | 片岡例剖検所見概要 渡辺教授説明 (謄写印刷) 1952. 9. 29 | 6枚 | 56—4 |
| 268 | エックス線照射廿日鼠の死亡率に及ぼす諸薬剤の影響
寛弘毅外7名 (謄写印刷) 1952. 9. 29 | 1枚 | 56—5 |
| 269 | 原子爆弾被爆者に見られた白血病例及び類縁疾患の剖検例 (謄写印刷) | 2枚2部 | 56—6 |
| 270 | 長崎地方に於ける原爆受傷者の外科的後遺症 調来助 (原稿) | 5枚 | 56—8 |
| 271 | 原子爆弾災害調査研究班第一回研究協議会記事・送状 塩田広重
(謄写印刷) 1952. 11. 10 | 4枚 | 47—7 |
| 272 | 原子爆弾災害調査研究班第2回会議開催通知 塩田広重
(謄写印刷) 1953. 1. 13 | 1枚 | 47—8 |
| 273 | 都築正男宛書簡 蜂谷道彦 1953. 1. 20 | 2枚 | 27—6 |
| 274 | 原子爆弾災害調査研究班第2回会議記事 (謄写印刷) 1953. 2. 5 | 2枚 | 47—9 |
| 275 | ラジオ講話(ラジオ中国) (タイプ) 1953. 3. 9 | 4枚 | 47—18 |

- 276 PRESENT STATUS OF ATOM BOMB WOUNDED Hiroshima
Municipal Atom Bomb Wounded Council
(英文タイプ) 1953. 4. 14 1枚 47—12
- 277 ATTENDANCE TO THE MEETING ON APRIL 15, 1953, AT ABCC
(英文タイプ) 1枚 47—11
- 278 Special Meetings-Nagasaki Medical Program
(英文タイプ) 1953. 5. 26, 5. 28 3枚 47—14
- 279 第一回研究連絡打合せニテ得タル概念(手書) 1953. 5. 28~ 6. 3 2枚 47—15
- 280 (会議メモ)(手書) 1953. 5. 28~ 6. 3 17枚 47—16
- 281 (都築正男宛連絡 広島大学精神科・公衆衛生研究計画)
河石九二夫(手書) 1953. 6. 4 4枚 47—17
- 282 原爆治療対策協議会研究治療部会について
松坂義正(広島県医師会会長)(手書) 1953. 6. 10 1枚 47—19
- 283 原爆治療対策協議会研究治療部会について
松坂義正(広島県医師会会長)(謄写印刷) 1953. 6. 10 2枚 47—19
- 284 都築正男宛書簡 天野重安 1953. 6. 20 1枚 47—22
- 285 都築正男宛書簡 河石九二夫 1953. 6. 20 1枚 47—21
- 286 都築正男宛書簡 調来助 6. 22 1枚 47—23
- 287 都築正男宛書簡 楨弘 1953. 6. 29 1枚 47—20
- 288 都築正男宛書簡 調来助 1953. 7. 6 2枚 47—24
- 289 文部省研究費による医学関係総合班の研究報告の提出について(通知)
中泉正徳 1953. 9. 1 4枚 47—27
- 290 塩田広重宛連絡 北村精一(長崎大学医学部長・原爆班連絡員)
1953. 9. 3 1枚 47—25
- 291 都築正男宛書簡 調来助 1953. 9. 4 2枚 47—26
- 292 原子爆弾災害調査研究班第3回会議開催通知
塩田広重(謄写印刷) 1953. 9. 14 2枚 47—28
- 293 (第3回会議メモ)(手書) 1953. 10. 14 5枚 47—29
- 294 原子爆弾災害調査研究班第3回会議記事
塩田広重(謄写印刷) 1953. 10. 14 3枚 47—30
- 295 (調査研究報告提出依頼) 塩田広重 1953. 10. 14 1枚2部 47—31
- 296 都築正男宛書簡 調来助 1953. 12. 21 1枚 47—40
- 297 都築正男宛書簡 調来助 1954. 1. 5 2枚 47—42
- 298 昭和29年度科学研究費総合研究の申請に関する件
塩田広重(謄写印刷) 1954. 1. 6 1枚 47—33

都築資料目録

- | | | | | | |
|-----|---|-----------------|----------------|------|-------|
| 299 | 都築正男宛書簡 | 天野重安 | 1954. 1. 8 | 2枚 | 47—45 |
| 300 | 都築正男宛書簡 | 渡辺漸 | 1954. 1. 17 | 2枚 | 47—44 |
| 301 | 都築正男宛書簡 | 菊池武彦 | 1954. 1. 18 | 1枚 | 47—47 |
| 302 | 都築正男宛書簡 | 中泉正徳 | 1954. 1. 18 | 1枚 | 47—38 |
| 303 | 都築正男宛書簡 | 調来助 | 1954. 1. 26 | 1枚 | 47—43 |
| 304 | 都築正男宛葉書 | 説田武 (京大医学部菊池内科) | 1954. 1. 29 | 1枚 | 47—46 |
| 305 | Dr. Masao Tsuzuki 宛書簡 Earle L. Reynolds
(英文タイプ) | | 1954. 1. 29 | 1枚 | 47—39 |
| 306 | 都築正男宛書簡 | 広瀬金之助 | 1954. 1. 30 | 1枚 | 47—41 |
| 307 | 原爆被害対策に関する調査研究連絡協議会 第二回広島・長崎部会日本学術会議放射線影響調査特別委員会医学班合同会議議事録
(謄写印刷) | | 1955. 2. 5 | 6枚2部 | 48—3 |
| 308 | A TENTATIVE PROGRAM JOINT SYMPOSIUM OF LATE EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB INJURIES (英文タイプ) | | 195 4.2. 5~6 | 1枚3部 | 47—48 |
| 309 | A TENTATIVE PROGRAM JOINT SYMPOSIUM OF LATE EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB INJURIES (英文タイプ) | | 1954. 2. 5~6 | 2枚2部 | 47—48 |
| 310 | 慢性原子爆弾症の診断と治療 (原稿) | | 1954. 2. 18 | 6枚 | 47—53 |
| 311 | 原爆障害症の治療について | 操担道 | 1954. 2. 18 | 1冊 | 47—54 |
| 312 | 原爆障害者の貧血の治療に就て | 浦城二郎 | 1954. 2. 18 | 1冊 | 47—55 |
| 313 | 内科的に見た原爆症の治療方針 | 菊池武彦 | 1954. 2. 18 | 1冊 | 47—56 |
| 314 | 原子爆弾熱傷瘢痕異状の治療方法 (案) | | 1954. 2. 18 | 6枚 | 47—57 |
| 315 | 第6回広島医学会総会プログラム | | 1954. 2. 20~21 | 1枚 | 47—52 |
| 316 | 長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察 第一編~第四編 調来助
(手書を写真にとったもの) | | | 4冊 | 38—8 |
| 317 | 原爆被爆対策に関する調査研究連絡協議会第三回広島長崎部会の開催について 小島三郎 (原爆被害対策に関する調査研究連絡協議会広島長崎部会長) (謄写印刷) | | 1955. 7. 1 | 1枚 | 48—1 |
| 318 | 第三回広島長崎部会開催要領 (謄写印刷) | | | 1枚 | 48—2 |
| 319 | 懇談会案内状 渡辺忠雄 (広島市長) | | 1955. 7. 12 | 1枚 | 48—4 |
| 320 | 広島・長崎両県の原爆障害者に対する治療法を確立するための調査研究費予算調書 (予防研究課) (謄写印刷) | | 1955. 7. 12 | 1枚 | 48—5 |
| 321 | 原爆被害対策に関する調査研究連絡協議会第三回広島長崎部会次第 | | | 2枚 | 48—7 |
| 322 | 長崎剖検状況 (昭和30年5月31日現在) | | | 1枚 | 48—8 |

- 323 被爆児童の精神及び身体発育に関する研究 田中正四・安道暢・久保良敏
・木田重雄 (謄写印刷) 1955. 7.12 4枚 48—9
- 324 被爆母体より被爆後に妊娠し初回に出生せる児童(所謂第1出生児)の発
育に就て 田淵昭・舟橋鋭徳・堀井英二 (謄写印刷) 1955. 7.22
3枚 48—10
- 325 原子爆弾後障害症治療指針案(昭和29年版) 原爆被害対策に関する調査
連絡協議会 (謄写印刷) 1冊 48—11
- 326 原子爆弾後障害症治療指針案(内科関係 昭和29年度版) 1冊 48—12
- 327 原子爆弾後障害症治療指針案(眼科関係 昭和29年度版) 1冊 48—13
- 328 Prof. Tsuzuki in Heidelberg Der Mediziner von Hiroshima
“Heidelberger Tageblatt” (新聞切抜) 1955. 9. 1 1枚 60—6
- 329 Mr. James T. Nicholson (American National Red Cross) 宛書簡
Tadatsugu Shimadzu (英文タイプ) 1955.12.28 8枚 55—1
- 330 Mr. James T. Nicholson 宛書簡 Masutaro Inoue
(英文タイプ) 1955.12.28 2枚 55—2
- 331 Dr. Tsuzuki 宛書簡 Norman Cousins (英文タイプ) 1956. 5.21
2枚2部 55—3
- 332 (歳出 広島原爆記念病院費用) (手書) 1956. 6. 7 2枚 55—5
- 333 都築正男宛書簡 高橋定 1956. 8.24 9枚 54—1
- 334 Dr. Masao Tsuzuki 宛書簡 Norman Cousins
(英文タイプ) 1956. 8.27 1枚3部 54—2
55—14
- 335 Mr. Norman Cousins 宛書簡 Masao Tsuzuki
(英文タイプ) 1956. 9.13 1枚2部3種 54—3
55—15
- 336 渡邊忠雄宛書簡(控) 都築正男 1956. 9.13 1枚 54—4
- 337 Dr. A. J. Barsky 宛書簡 Teruo Hachiya (Manager of the American-
Japan Society) (英文タイプ) 1956. 9.21 1枚 55—10
- 338 Mr. Norman Cousins 宛書簡 Takashi Komatsu (President of the
American-Japanese Society) (英文タイプ) 1956. 9.21 1枚 55—11
- 339 (ARTHUR JOSEPH BARSKY の履歴) (英文タイプ) 1枚2部 54—6
55—17
- 340 Russel 宛書簡(草稿) Masao Tsuzuki (英文手書) 2枚 54—7
- 341 Projects of Hiroshima Maidens (英文タイプ) 1枚 55—4
- 342 (治療費見積り) (原田外科病院用箋) (手書) 1枚 55—12
- 343 COUSINS, Norman From Who's Who in America, 1954—1955, Vol.28
(英文タイプ) 1枚 55—13
- 344 都築正男宛依頼状 渡邊忠雄 1956. 6.30 1枚 55—6

都築資料目録

- 345 (都築正男宛依頼状) 渡邊忠雄 1956. 8.18 2枚 55—8
- 346 原爆障害者援護広島委員会協議決定事項(広島市用箋)
(手書) 1956. 9.20受 3枚 55—9
- 347 財団法人 広島原爆障害対策協議会寄附行為 (謄写印刷) 5枚 55—7
- 348 原爆障害者治療対策の概要 広島市原爆障害者治療対策協議会 1冊 48—6
- 349 Tsuzuki 宛書簡 Dr. A. Hübner (英文タイプ) 1956.10 1枚 60—4
- 350 Review of the Recent Researches on the Biological Effects of Ionizing
Radiation in Japan Masao Tsuzuki 1957. 2 3冊 43—19
- 351 Tsuzuki 宛書簡 Dr. med. E. Platzer 1957. 4.12 1枚 60—5
- 352 放射線影響調査特別委員会の運営について 都築正男
(原稿) 1957.12.25 5枚 60—9
- 353 放射線により発現する異常状態
渡辺漸「原爆被爆による障害症」から (手書) 1958. 8 6枚 57—37
- 354 原子爆弾後障害研究会 講演及び順序 1959. 6.13~14 1枚2種 57—2
- ※355 原子爆弾後障害研究会 8点(48頁) 59
- 356 原爆被爆者の医療等に関する法律施行状況一覧表など 公衆衛生局企画課
(謄写印刷) 1959. 6.10 3枚 57—3
- 357 原爆失明者の実態について 増田義哉(広島赤十字病院) (謄写印刷)
1枚 57—4
- 358 原水爆被害に対する総合的調査研究班次第書(案) 4枚 50—1
- 359 原水爆被害に関する総括的研究委員会 昭和34年度第1回会議メモ
(手書) 4枚 50—2
- 360 散乱体近傍のγ線吸線量の測定法 木村毅一・中井洋太
1959.10. 5 1冊 50—3
- 361 原爆被爆者白血病の病理—特に白血病の進展形式について—
堀野郁三・広瀬文男 1959.10. 5 1冊 50—19
- 362 I^{131} の内部照射が廿日鼠に及ぼす長期影響、特に造血臓器と脳下垂体の
変化について 竹本裕幸 1959.10. 5 1冊 50—17
- 363 1. P^{32} の内部照射が廿日鼠の造血機能に及ぼす影響並びに腫瘍及び白血
病の発現について 2. 急性放射線障害に対する骨髓の治療効果に関する
研究(続報) 脇坂行一・松本彦晴・山岸司久 1959.10. 5 1冊 50—9
- 364 被爆者、特に癒痕所有者の甲状腺、副甲状腺、副腎皮質の機能
調来助・手塚博・田崎英秋 1959.10. 5 1冊 50—8
- 365 原爆被爆者の疫学的遺伝学的研究—原爆被爆者の精神身体医学的観察—
操担道・九大第一内科 1959.10. 5 1冊 50—7
- 366 長崎被爆者の地区別脱毛頻度 調来助・手塚博 1959.10. 5 1冊 50—6

367	被爆1～3ヶ月後における広島原爆被災者(175名)の血液像と瞬間放射線量との関係 脇坂行一 1959.10.5	1冊	50—5
368	被照射集団中の有害遺伝子の頻度分布(キイロシヨウジョウバエを材料として) 松平頼暁・山崎昭俊・村地孝一	1冊	50—18
369	東京在住原爆被爆者の造血障害調査成績 美甘義夫・宮川正	1冊	50—16
370	西山地区における放射性降下物の基準線量率 入江英雄・竹下健児・森田右	1冊	50—15
371	原爆被爆者の精神作業能力 浦城二郎	1冊	50—14
372	長崎市外長与村に於ける水晶体検診成績 広瀬金之助・広瀬泉	1冊	50—13
373	広島における残留放射能 山崎文男 (原稿)	2枚	52—1
374	放射線の晩期的造血障害像に関する臨床観察成績 美甘義夫・中島章・今村幸夫・小宮正文 (原稿)	3枚	52—2
375	原爆被爆者の疫学的遺伝学的研究 操担道 (原稿)	3枚	52—3
376	原水爆被害に関する臨床的ならびに実験的研究 菊地武彦 (原稿)	3枚	52—4
377	原水爆の被爆のさいの被放射線量の推定 斎藤信房 (原稿)	3枚	52—5
378	散乱体近傍のγ線吸収量の測定法 木村毅一	1冊	52—6
379	原水爆被害に関する総括的研究班 昭和34年度申請書控 (手書)	18枚	52—7
※380	(研究経過・計画)	8点(48頁)	52—8
381	原子爆弾被爆者医療審議会会次第 (謄写印刷) 1959.10.13	1枚	51—1
382	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律施行状況一らん表 公衆衛生局企画課 1959.10.13	1枚	51—3
383	指定医療機関追加分 (三病院) 1959.10.13 (手書)	1枚	51—5
384	原爆対策費関係予算調 企画課 (謄写印刷)	1枚	51—4
385	原子爆弾被爆者医療審議会会議次第 (謄写印刷) 1959.2.15	1枚	49—1
386	原子爆弾被害者の医療等に関する法律の一部を改正する法律案要綱 (謄写印刷)	1枚	49—2
387	指定医療機関追加分 (謄写印刷) 1960.2.15	1枚	49—3
388	昭和35年度原子爆弾被爆者の医療等に関する法律の施行に必要な経費 企画課 (謄写印刷) 1960.2.4	2枚	49—5
389	原子爆弾被爆者の医療等に関する法律施行状況一覽表 厚生省公衆衛生局企画課 (謄写印刷) 1960.2.13	1枚	49—6
390	原水爆の被爆のさいの被放射線量の推定 斎藤信房 (謄写印刷) 1960.2.25	1枚	53—2
391	原爆被爆者の臨床的研究 菊池武彦・三宅儀 1960.2.25	1冊	53—3

都築資料目録

- 392 長崎市西山地区の残留放射能測定 入江英雄・竹下健児 2冊 53-4
- 393 白血病の骨髓組織に及ぼす化学療法の影響—特に原爆被爆に関連ある白血病について— 広瀬文男・畑野郁三 1960. 2.25 2冊 53-5
- 394 慢性原爆障害者に対する温泉療法の治療効果 浦城二郎 1960. 2.25 2冊 53-6
- 395 トロトラスト造影法による後遺症 殊に肝臓癌の発生について 三宅仁・菅野晴夫 1960. 2.25 1冊 53-7
- 396 長崎に於ける原爆被爆者の甲状腺・副甲状腺・副腎皮質の機能 調来助・手塚博・田崎英秋 1960. 2 1冊 53-8
- 397 レ線全身大量照射及び熱傷の甲状腺・副甲状腺・副腎皮質機能に及ぼす影響(実験的研究) 調来助・手塚博 1960. 2 1冊 53-9
- 398 原爆被爆者の血液像異常に対する治療法について —オロチン酸の使用経験— 脇坂行一 1960. 2.25 1冊 53-10
- 399 ラジオ・オートグラフィーによる骨髓細胞のデオキシリボ核酸合成に関する研究: 骨髓細胞核酸合成に及ぼすX線の影響 脇坂行一 1960. 2.25 1冊 53-11
- 400 P^{32} Incorporation に依る Co^{60} γ -線照射海猿の造血臓器の核酸代謝に関する研究 脇坂行一 1960. 2.25 1冊 53-12
- 401 八幡地区在住被爆者検診成績 操担道 1960. 2.25 2冊 53-13
- 402 被爆状況表 廣瀬金之助 (英文タイプ) (写真付) 1枚 53-14
- 403 広島に於ける被爆線量の推定 田島英三・織田暢夫 1960. 2.25 1冊 53-15
- 404 広島の土砂を JRR-1 によって放射化した試料の放射能減衰曲線 山崎 (謄写印刷) 1960. 2.25 5枚2部 53-16
- 405 過去14年間(1946~1959)の広島市に於ける白血病の統計的観察 伊藤俊夫・松林保英・広瀬文男 1960. 2.25 2冊 53-17
- 406 執筆依頼 『臨休と研究』昭和35年4月 『放射能と医学特集』 (謄写印刷) 4枚 58-1

VII 都築正男論文原稿・メモ 1952~1958

- 407 REPORT ON THE MEDICAL STUDIES OF THE EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB Dr. MASAO TSUZUKI (英文タイプ) 54枚 27-3
- 408 Atomic Bomb Report (英文手書) 38枚 37
- 409 原子爆弾災害調査研究『総合研究報告集録』 (別刷) 1冊 47-10
- 410 昭和28年度研究費配分表 (手書) 11枚 47-13
- 411 原子爆弾災害の跡を調べて (原稿) 1954. 2 17枚 57-1
- 412 新聞スクラップ(大学ノートに貼付) 1957 1冊 27-11

※413	原子爆弾災害調査研究	15点 (49頁)	47—35
414	ATOMIC BOMB INJURY FROM MEDICAL POINT OF VIEW Masao Tsuzuki (ゲラ)	5 枚	47—36
415	ACUTE AND CHRONIC RADIATION INJURIES Masao Tsuzuki (英文タイプ)	8 枚 2 部	47—37
416	ANALYSIS OF THE RELATIONSHIP OF SHIELDING AND DISTANCE FACTORS TO RADIATION CATARACTS Lowell A. Woodbury (英文タイプ)	6 枚	47—51
417	国連科学委員会について 都築正男 (原稿)	25枚	60—3
418	広島及び長崎における原子爆弾障害の後期症状 (後遺症総論) 都築正男 (原稿)	4 枚	60—10
419	広島及び長崎における原子爆弾後遺症としてのケロイド問題 都築正男 (原稿)	4 枚	60—11

VIII 都築正男講演要旨 1955~1958

420	原子力導入に就ての考え方 生命保険文化研究所主催講演	1955. 6.10	1 枚	57—11
421	熱傷 (最近の経験とそれに対する対策の進歩) 短波放送	1955. 6.30	1 枚	57—12
422	原子力問題の医学的考察 宇都宮市医師会	1955. 7. 3	1 枚	57—13
423	国際外科医会に出席して 外科集談会	1955.11.19	1 枚	57—14
424	放射能障害の対策に就ての考察 東大病理学教室記念講演	1956. 5.17	1 枚	57—15
425	原子力放射能の人体に及ぼす影響 東京労働基準連合会講演	1956. 9.26	1 枚	57—16
426	国連科学委員会に出席して	1956.11.12	1 枚	60—12
427	国連科学委員会の話題から	1956.11.21	1 枚	60—13
428	原水爆実験の影響 NHK放送録音	1957. 2.28	1 枚	57—17
429	国連科学委員会 (第3回会議) NHK解説	1957. 5. 4	1 枚	57—18
430	放射能障害について 新潟大学医学部本館講堂にて	1957. 5.19	1 枚	57—19
431	国連科学委員会から帰って 日本短波	1957. 5.21	1 枚	57—20
432	放射線の人体に対する影響 外務省にて	1957. 5.31	3 枚	57—21
433	人体に対する放射能の影響 法政大学平和問題講演会	1957. 6. 1	1 枚	57—22

都築資料目録

- | | | | | |
|-----|--|--------------|----|-------|
| 434 | 放射能の研究と日本のサイエンス 国際放送 | 1957. 6. 3 | 1枚 | 57—23 |
| 435 | 人体に対する放射能の影響 神奈川原水協支部幹事会 | 1957. 6. 10 | 1枚 | 57—24 |
| 436 | 医学の立場から見た放射能の問題 東京都立教育研究所主催 教師のための
土曜公開講座 | 1957. 6. 22 | 1枚 | 57—25 |
| 437 | 放射能障害に関する最近の話題（特に極微量放射能の長期影響についての
医学的考察）「三共」学術講演会 | 1957. 7. 23 | 1枚 | 57—26 |
| 438 | 放射能症の診断と治療 八幡市 | 1957. 8. 8 | 1枚 | 57—27 |
| 439 | 放射線障害について 東京電力衛生管理者講習会講演 | 1957. 8. 20 | 1枚 | 57—28 |
| 440 | 公衆衛生の立場から原子力問題を考える
日赤看護婦同窓会講演 | 1957. 10. 13 | 1枚 | 57—29 |
| 441 | 放射能雑話 日赤報道室講演 | 1957. 10. 18 | 1枚 | 57—30 |
| 442 | 放射能と遺伝 日本歯科医師会講演 | 1957. 10. 19 | 1枚 | 57—31 |
| 443 | 放射能による発癌との問題 全日赤X線技師会 | 1957. 11. 12 | 1枚 | 57—36 |
| 444 | 放射線障害についての医学的考察 日本大学医学部講演 | 1958. 5. 21 | 1枚 | 57—32 |
| 445 | 国連科学委員会の報告書はどうまとまったか
日赤病院集談会講演 | 1958. 7. 16 | 1枚 | 57—33 |
| 446 | 放射線障害問題と国際情勢 東京南ロータリークラブ講演 | 1958. 9. 16 | 1枚 | 57—34 |

Ⅸ 論文・雑誌 1945～1959

- | | | | | |
|-----|---|------------|----|-------------|
| 447 | 原子爆弾による広島市の損害に就て
『日本医事新報』 №1169 | 1945. 10 | 1冊 | 25—3 |
| 448 | 所謂「原子爆弾症」に就て 特に医学の立場からの対策
『総合医学』第2巻第14号 | 1945. 10 | 1冊 | 25—2 |
| 449 | Observations of Burn Scars Sustained by Atomic Bomb Survivors,
“American Journal of Surgery” | 1948. 3 | 5冊 | 39
63—21 |
| 450 | 熱傷の熱学的研究（其の一）・（其の二） 宮崎舜治
『日本外科学会雑誌』51巻3号（別刷） | 1950. 6 | 1冊 | 07—9 |
| 451 | 原子爆弾症脳髓の病理 白木博次
『精神神経学雑誌』第53巻第4号（別刷） | 1951. 12 | 2冊 | 27—5 |
| 452 | 『広島医学』 第5巻第5・6号 | 1952. 6. 1 | 1冊 | 17—1 |
| 453 | 座談会 原爆の思い出を語る 広島通信病院『郵政』抜刷 | 1952. 8 | 1冊 | 27—8 |

- 454 SCARS REMAINING IN ATOM BOMB SURVIVORS, WARNER-
WELLS, NEAL TSUKIFUJI Reprint from AURGERY, GYNE-
COLOGY AND OBSTETRICS Vol. 95 1952. 8 1冊 44—2
- 455 原子爆傷とはどんなものか 『朝日新聞』夕刊 1952. 9.11 1枚 47—49
- 456 ABCC の内幕、テーラー所長との問答 武谷三男
『改造』第33巻17号 1952.11.15 1冊 40—1
- 457 水爆の威力と被害 武田栄一 『読売新聞』 1952.11.25 1枚 56—9
- 458 原爆娘と原子科学者の座談会 『読売新聞』 1952.11.25 1枚 56—9
- 459 CEREBRAL INJURIES CAUSED BY ATOMIC BOMBARDMENT,
Y. UCHIMURA, H. SHIRAKI Reprinted from The Journal of
Nervous and Mental Disease Vol 116, No. 6 1952.12 1冊 44—3
- 460 原子爆弾放射能症 総合調査研究の公刊に際して
『週刊医学通信』第7年第323号 1952.12 1冊 41—3
- 461 原子爆弾被爆体験の人々と語る 日銀本店 1952.12.23 1冊 47—50
- 462 『昭和27年度文部省科学研究費による総合研究報告集録（昭和27年12月現
在）』—医学および薬学編— 日本学術振興会編 1953. 2. 5 1冊 41—5
- 463 原子爆弾による傷害に就て
『臨床』第6巻第2号原子爆弾傷特集 1953. 2 5冊 63—10
- 464 原子爆弾傷とその後遺症
『東京医学会雑誌』第60巻第5・6号 1953. 2 3冊 25—5
- 465 原爆被害のあとしまつ 原爆の被害者は現在二十八万人生存している
『話』第3巻第4号 1953. 4 1冊 22
- 466 原子爆弾被爆者熱傷瘢痕の整形手術について 岡本繁・勝部玄
『臨床外科』第8巻第5号（別刷） 1953. 5 1冊 27—7
- 467 原爆対医学のたゝかい 誌上参加座談会（御園生圭輔・泰藤樹）
都築正男『生態』第1巻第1号 1953. 5 1冊 23
- 468 原爆障害後遺症 『日本医事新報』No.1543 1953.11 1冊 41—1
- 469 MEDICAL REPORT ON ATOMIC BOMB EFFECTS THE MEDICAL
SECTION, THE SPECIAL COMMITTEE FOR THE INVESTIGATION
OF THE EFFECTS OF THE ATOMIC BOMB, NRCJ 1953 1冊 61
- 470 医学の立場から見た原子爆弾の災害
『総合医学』Vol 11 No. 1 1954. 1 3冊 35
47—58
- 471 「赤十字精神」で原爆を禁止せよ 『日本週報』No. 273 1954.1 2冊 24
- 472 医学の立場から見た原子爆弾の災害 『医学書院』1954. 2. 5 1冊 62
- 473 慢性原子爆弾症について 『日本医事新報』No. 1556 1954. 2 4冊 25—1
44—7

都築資料目録

- 474 SCARS REMAINING IN ATOMIC BOMB SURVIVORS (A Four Year Follow-Up Study), Warner Wells, Neal Tsukifuji 1954. 4. 5受 09—2
2冊 44—2
- 475 放射能障害を語る (座談会 塩田広重・都築正男他13名) 『日本医事新報』No. 1579 1954. 7 1冊 41—1
- 476 キューリー夫妻を訪ねて 『改造』第35巻第8号 1954. 8 1冊 40—2
- 477 欧米に於ける原子力と放射能障害との問題 『思想』No. 362 1954. 8 1冊 40—4
60—2
33
- 478 放射能障害について 『日本医師会設会設立記念第7回医学大会講演集』 1954. 11 4冊 43—21
63—22
- 479 放射能障害について 『日本医師会雑誌』第32巻第9号 1954. 11 6冊 42—8
44—6
- 480 原子力医学 『公衆衛生』第16巻第6号 1954. 12 1冊 43—14
29
- 481 放射能障害に関する二・三の問題について 『月刊、臨牀と研究』第31巻第12号 (別刷) 1954. 12 7冊 25—4
44—4
63—20
- 482 医学的に見た原水爆の災害 『自警』第37巻第1号 1955. 1 1冊 21
- 483 放射能症に就いて 『昭和医学会雑誌』第14巻第6号 1955. 1 3冊 42—7
- 484 第5福龍丸乗組員の治療に当って 三好和夫 『学術月報』Vol. 7, No. 10 (別刷) 1955. 1 1冊 44—1
- 485 原子力兵器災害の調査研究 (別刷) 1955. 2 3冊 43—2
- 486 広島長崎の被爆とビキニの被灰 『東京医学雑誌』第63巻第1号 1955. 2 3冊 25—6
42—3
- 487 原子力兵器による災害の医学的観察 『診断と治療』第43巻第4号 1955. 4 6冊 44—8
63—24
- 488 原子力兵器による障害について 第十四回日本医学会見聞おぼえがき 『日本医事新報』No. 1618 1955. 4 2冊 42—6
63—25
- 489 原子爆弾災害の防護と救護 『保安衛生』第2巻第9号 1955. 9 4冊 43—12
- 490 生物並びに医学領域の話題と感想 『学術月報』Vol. 8 No. 8 1955. 11 1冊 63—11
- 491 Erfahrungen über radioaktive Schädigung der japanischen Fisher durch Bikini-Asche, "Münchener Medizinische Wochenschrift" 97 Jahrgang 1955 6冊 43—1
63—23
- 492 原子力平和利用国際会議に就いて 特に公衆衛生学領域の話題 『日本公衆衛生雑誌』第3巻第6号 1956. 1 3冊 43—13

- 493 原子炉操作中に発生する放射性廃棄物の処理 (1955年 Geneva 会議の報告から) 『公衆衛生雑誌』第3巻第6号 1956. 1 3冊 57—8
- 494 放射能障害とその防禦に関する諸問題 『歯界展望』第13巻第2号 1956. 2 6冊 42—5
- 495 「原子力と医学—原子力平和利用国際会議から—」 都築正男監修 『総合医学』第13巻第3号 1956. 3 1冊 36
- 496 原子力平和利用国際会議に出席して 『総合医学』第13巻第3号 1956. 3 3冊 42—4
- 497 肝臓と放射能 『東京女子医科大学雑誌』第26巻第3号 1956. 3 3冊 42—1
- 498 欧米における放射能傷害の対策について 『保安衛生』第3巻第5号 1956. 5 3冊 43—3
- 499 米、影響調査を始む 水爆実験 爆発力十メガトンか 『朝日新聞』 1956. 5.22 1枚 57—9
- 500 RADIOACTIVE STRONTIUM FALL OUT, Dr. W. F. Libby, Reprinted from the Proceedings of the NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES, Vol. 42 No. 6 1956. 6 1冊 63—12
- 501 遺伝には重大な影響 都築正男 『読売時評』 1956. 7. 5 1枚 57—10
- 502 原子放射線影響調査に関する国際連合科学委員会に出席して 『学術月報』Vol. 9 No. 5 1956. 8 3冊 43—3
- 503 人体に対する放射能の影響を調べる 国際連合科学委員会を中心として 『総合医学』第13巻第9号 1956. 9 4冊 43—8
60—7
- 504 昭和三十一年八月調査 原爆被災者の実態 原爆被災者の会 1956. 9 1冊 07—26
- 505 原子力導入についての考え方 『生命保険文化研究所所報』第3号 1956.11 4冊 43—6
44—5
- 506 Keolid Problem as a Late Effects of the Atomic Bomb Injury “the Research in the Effects and Influences of the Nuclear Bomb Test Explosions” 1956 4冊 34
43—20
- 507 Medical Consideration on Radiation Injury due to Bikini-Fallcu “the Research in the Effects and Influences of the Nuclear Bomb Test Explosions” 1956 3冊 42—14
- 508 Late Effects of Atomic Bomb Injury in Hiroshima and Nagasaki “the Research in the Effects and Influences of the Nuclear Bomb Test Explosions” 1956 3冊 42—15
- 509 原子爆弾災害調査研究 塩田広重 『昭和30年度文部省総合研究報告集録』—医学及び薬学編— (別刷) 1冊 63—14

都築資料目録

- 510 (対談) 日出造見参、ヤァこんにちは 192
(近藤日出造・都築正男) 『週刊読売』 1957. 3 1冊 41—16
- 511 核爆発に伴う人工放射性物質の影響 国際連合科学委員会を中心として 『総合医学』 Vol. 14 No. 5 1957. 4 4冊 43—10
60—8
- 512 核爆発と放射能 『世界』第137号 1957. 5 2冊 40—3
57—6
- 513 原子力放射線影響調査に関する国連科学委員会第3回会議に出席して 『学術月報』 Vol. 10 No. 3 1957. 6 5冊 43—4
57—35
- 514 人体に対する放射線の影響について 国際連合科学委員会を中心として 外務省国際協力局第三課 2冊 43—16
- 515 白血病と放射能 E. B. ルイス 『毎日新聞』 1957. 7. 8 1枚 57—39
- 516 肺癌の統計 (広島県衛生部報告) 『朝日新聞』 1957. 8. 9 1枚 57—38
- 517 広島に於ける被爆調査—文献抄録—
原爆医療特別委員会調査部編 1958. 3 1冊 45
- 518 放射線障害の医学的考察 日大病院月例臨床談話会における話題を中心として 『日本医事新報』第1784号(別刷) 1958. 7 4冊 43—15
- 519 原子力放射線影響調査に関する国際連合科学委員会第5回会議に出席して 『学術月報』 Vol. 11 No. 6 1958. 9 1冊 43—5
- 520 『国連科学報告書』を討議して 田島英三
『東大新聞』赤門時報 1958. 9. 10 1枚 57—7
- 521 『放射線の影響 国際連合科学委員会報告書1958年』
都築正男編 田島英三・玉木英彦訳 日本学術振興会 1958. 11 1冊 28
- 522 放射能調査の展望 原子力委員会 1959. 4 1冊 27—4
- 523 長崎に於ける原子爆弾による白内障 徳永次彦
『日本眼科学会雑誌』第63巻第5号(別刷) 1959. 5 1冊 50—11
- 524 実験的放射線白内障 徳永次彦
『日本眼科学会雑誌』第63巻第5号(別刷) 1959. 5 1冊 50—12
- 525 放射線による加齢現象の促進について 中泉正徳
『老年病』第3巻第6号(別刷) 1959. 6 1冊 50—4
- 526 ICRP 新勧告の意義 『学術月報』 Vol. 12 No. 4 1959. 7 1冊 43—17
- 527 原子爆弾による障害の研究経過について
『広島医学』 Vol. XII No. 11, 12 (別刷) 1959. 12 5冊 43—11
- 528 原水爆障害に関する世界の動向 『日本の医学の1959年、第15回日本医学会総会学術集會記録』第V巻 1959 3冊 43—18
- 529 原水爆被害に関する総合的研究 塩田広重 『昭和34年度文部省総合研究集録』—放射線編— (別刷) 1960. 2 1冊 53—1

- 530 原子爆弾障害 とくにその後影響症について
『臨床と研究』第37巻第4号 1960. 4 3冊 43—7
- 531 原爆熱傷瘢痕等の形成外科的治療を中心として Prof. Bürle de la Camp
および Dr. Parchwitz をかこんで
『形成美容外科』第3巻第3号 1960. 7 2冊 30
- 532 Recommendations of the International Commission on Radiological
Protection The International Commission on Radiological Protection
3冊 43—9
- 533 原子爆弾災害調査報告集—目次 (別刷) 1冊 47—32
- 534 広島市における原子爆弾に関する調査(一般的調査 昭和20年9月)
呉鎮守府 『原子爆弾災害調査報告集』(別刷) 4冊 42—9
- 535 広島市における原子爆弾に関する調査(医学的方面)
呉鎮守府 『原子爆弾災害調査報告集』(別刷) 4冊 42—10
- 536 原子爆弾の生物学的作用に関する研究(第2回報告)
呉鎮守府衛生部 『原子爆弾災害調査報告集』(別刷) 2冊 42—11
- 537 原子爆弾の生物学的作用に関する研究(第3回報告 昭和20年11月3日)
呉鎮守府衛生部 『原子爆弾災害調査報告集』(別刷) 3冊 42—12
- 538 原子爆弾による広島戦災医学的調査報告 陸軍軍医学校・臨時東京第一陸
軍病院 『原子爆弾災害調査報告集』(別刷) 3冊 42—2
- 539 『総合医学』第9巻第9号(別刷) 1952. 9 1冊 41—19
- 540 『週刊医学通信』第7巻第323号 1952. 12 1冊 41—8
- 541 『日本医事新報』No. 1537 1953. 10 2冊 41—1
- 542 『日本医事新報』No. 1543 1953. 11 1冊 41—1
- 543 『日本医事新報』No. 1556 1954. 2 4冊 41—1
- 544 『日本医事新報』No. 1558 1954. 3 1冊 41—1
- 545 『日本医事新報』No. 1579 1954. 7 1冊 41—1
- 546 『サンデー毎日』1954. 2. 21 1冊 41—17
- 547 『TIME』1957. 2. 18 1冊 41—18
- 548 『TIME』1957. 3. 11 1冊 41—18
- 549 『医療』Vol. 9 No. 1 1955. 1 1冊 41—4
- 550 『外科診療』第1巻第6号(別刷) 1959. 12 1冊 42—16

X 都築正男外科学関係論文

- 551 「エプーリス」ニ就テ 『日本外科学会雑誌』第26回第8号 1925.11
3冊 26—42
- 552 硬「レントゲン」線ノ生物学的作用ニ関スル実験的研究
『日本外科学会雑誌』第27回第1号 1926. 4 1冊 60—1
- 553 EXPERIMENTAL STUDIES ON THE BIOLOGICAL ACTION OF
HARD ROENTGEN RAYS
BY MASAO TSUZUKI, M. D. 1926. 8 2冊 32
63—19
- 554 歯顎口腔疾患ニ於ケル熱 『医学輯覽』臨時号 1930.12 1冊 26—24
- 555 抜歯ニ因スル上顎竇ノ穿通ニ就テ（臨床講義）
『日本歯科口腔科学会雑誌』第43号 1931. 9 1冊 26—13
- 556 頤癰（臨床講義） 『実験医報』第18年205号 1931.11 1冊 26—1
- 557 歯齦腫（「エプーリス」）ニ就テ
『日本歯科口腔科学会雑誌』第46号 1932. 6 1冊 26—14
- 558 歯性頭部膿瘍 『日本歯科口腔科学会雑誌』第46号 1冊 26—46
- 559 急性上顎骨骨炎（臨床講義） 『実験医報』第18年213号 1932. 7 1冊 26—2
- 560 下顎切除ト骨移植法（臨床講義） 『実験医報』第19年218号 1932.12
1冊 26—3
- 561 下顎智歯周囲炎（臨床講義）
『日本歯科口腔科学会雑誌』第50号 1933. 6 2冊 26—36
- 562 上顎欠損後ノ補填療法（臨床講義）
『日本歯科口腔科学会雑誌』第51号 1933. 9 1冊 26—15
- 563 歯性顎炎ノ病理及ビ療法
『大日本歯科医学會誌』第31年第2号 1933.10 2冊 26—38
- 564 東京帝国大学医学部歯科学教室近業抄
『日本歯科口腔科学会雑誌』第53号 1934. 3 1冊 26—16
- 565 膝蓋骨骨折（臨床講義 松原貞次記）
『実験医報』第20年第238号 1934. 8 1冊 26—4
- 566 再び虫様突起を探りて 『実験医報』第21年第242号 1934.12 1冊 26—5
- 567 顎下腺の腫大を初許として急性骨髓性白血病（臨床講義 片岡六四郎記）
『実験医報』第21年第246号 1935. 4 1冊 26—6
- 568 頭部及び顔面の外傷（臨床講義 卜部美代志記）
『治療及処方』第16年第16巻第4冊第183号 1935. 5 1冊 26—27
- 569 放線状菌症の研究 『東京医事新誌』第2932号 1935. 6 2冊 26—39
- 570 外傷患者の応急処置に就て 『診断と治療』臨時増刊 1935.11 1冊 26—9

- 571 虫様突起炎治療の変遷を辿る 『診断と治療』臨時増刊 1935.11 1冊 26—11
- 572 廻盲部癌種(臨床講義 深沢潔記) 『実験医報』第22年第259号 1936. 5
1冊 26—7
- 573 再びアメリカの医学を觀て 『実験医報』第23巻第265号1936.11 1冊 63—17
- 574 第2回汎太平洋外科学会(The Second Congress, Pan-Pacific Surgical Association) 参列報告書 (都築正男・佐藤清一郎・西川義英共著)
『日本外科学会雑誌』第37回第12号 1937. 3 1冊 26—28
- 575 戦近に於ける肺結核外的療法の趨勢に就て
『外科』第1巻第1号 1937. 4 1冊 63—15
- 576 大綱ノ生理及ビ病理 『東京医事新誌』第3029号 (抜冊) 1937. 4
1冊 26—25
- 577 大綱ノ生理及ビ病理 『日本消化機病学会雑誌』第36巻第6号 1937. 6
1冊 26—17
- 578 外科学 顔面・口腔・頸部・食道・胸部 『日本医事年鑑』 1937 1冊 26—18
- 579 RANULA AND SYPHILIS “The American Journal of Surgery”
Vol. 37 No. 1 1937. 7 4冊 26—40
63—13
- 580 乳腺腫瘍の鑑別診断及検査法 『診断と治療』臨時増刊 1937.11 2冊 26—35
- 581 戦近ニ於ケル肺結核外科的療法ノ趨勢ニ就テ
(呉鎮守府軍医長記) 1937.11 1冊 63—18
- 582 全身及び局所麻酔剤(手術時無痛法手技の検討)
『常用薬剤の副作用及び中毒と其処置』第3篇 1937.12 3冊 63—9
- 583 結核性頸部淋巴腺炎(臨床講義深沢喜守雄記)
『実験医報』第24巻第281号 1938. 3 1冊 26—8
- 584 支那事変に於ける戦傷に就て
『第十回日本医学会会誌』 1938. 3 1冊 26—32
- 585 支那事変に於ける戦傷に就て 『実験医報』第283号 1938. 5.12 2冊 26—34
- 586 Effects of Be-D Radiations upon vica Fada MASANORI NAKAIZ-
UMI, KŌITI “NATURE” Vol. 142 1938. 9 1枚 08—14
- 587 内臓損傷の臨床症状に拠る早期診断
『診断と治療』臨時増刊第15号 1938. 9 1冊 26—10
- 588 マーキュロクロームに代るべきマーゾンに就て
『東京医事新誌』 第3105号 1938.10 1冊 26—26
- 589 戦傷治療ニ関スル其ノ後ノ知見ニ就テ
(佐世保鎮守府軍医長記) 1938.11 1冊 26—30
- 590 外科学 顔面・口腔・食道・胸部
『日本医事年鑑』昭和十三年度 1938 2冊 26—20

- 591 戦傷の特殊性に就て
『日本臨床外科医会雑誌』第2回第11号 1939. 2 1冊 26—31
- 592 肺結核の外科的治療に就て
『実験医報』第25年第300号 1939. 10 1冊 63—16
- 593 戦傷学 『日本医事年鑑』 1939 1冊 26—21
- 594 外科学 顔面・口腔・頸部・食道・胸部
『日本医事年鑑』昭和十四年度 1939 1冊 26—19
- 595 Biologische Wirkung von Alphastrahlen unter Berücksichtigung der
Probleme der Radium-Schwachtherapie
Doz. Dr. K. Inouye "Strahentherapie" 64 B and 1939 1冊 15—10
- 596 戦時下獨逸医学見聞談
『日本臨床外科学会雑誌』第5回第1号 1941. 1 1冊 26—22
- 597 放線菌症の予後 『日本医事新報』第1008号 1942. 1 1冊 26—23
- 598 胃十二指腸の外科 『保険医学雑誌』第41巻第4号 1942. 9 1冊 26—41
- 599 Implications from studies with Physical Carcinogens Paul. S. Henshaw
"CANCER" Journal of the National Institute Vol. 5 No. 6 1945. 6 1冊 17—33
- 600 CIRCULAR LETTER No. 35 CALCULATION OF HEMOGLOBIN,
HENOTOCRIT AND PLASMA PROTEIN (THE COPPER SUL-
PHATE METHOD) GHQ·U. S. ARMY FORCES, PACIFIC OF THE
CHIEF SURGEON (英文タイプ) 1945. 8 9枚 11—5
- 601 熱傷に就て 『総合医学』第2巻第11号 1945. 8 1冊 26—33
- 602 『皮膚科性病科雑誌』第56巻第1号 1946. 6 1冊 09—11
- 603 創傷に就て 『医療』第1巻第3号 1948. 2 1冊 41—10
- 604 外科臨床から眺めた肺結核症の治療
『最新医学』第5巻第1号 1950. 1 1冊 41—11
- 605 結核と外科 『臨床外科』第5巻第1号 1950. 1 1冊 41—12
- 606 斎藤真先生の憶い出 『臨床外科』第5巻第3号 1950. 3 1冊 41—12
- 607 アメリカの旅、附心臓手術の見聞談(座談会 都築正男・塩田広重・大槻
菊男) 『臨床外』第5巻第8号 1950. 8 1冊 41—12
- 608 肺結核に対する肺切除術の概念—外科医の常識
『臨床外科』第6巻第8号 1951. 8 1冊 41—12
- 609 或る日の塩田広重先生、齢と健かさと若さの泉を探る
『日本臨床』第9巻第12号 1951. 12 1冊 41—6
- 610 肺結核の外科的療法を行う場合に化学療法を如何に併用すべきか
(座談会都築正男・宮川米次・美甘義夫)
「診療の実際」Vol. 3 No. 1 1952. 1 1冊 41—7

611	肺結核の外科的治療法の回顧と展望 『結核診療室』第2巻第1号 1952. 1	1冊	41—14
612	肺結核症の外科的治療に関する二・三の考察 『日本臨床結核』第11巻第1号 1952. 1	1冊	41—13
613	結核外科今昔物語 (座談会 都築正男・河合直次・佐藤清一郎・篠井金		
614	吾)『日本臨床』第10巻第3号・第4号 1952. 3. 4	2冊	41—6
615	肺結核に対する撰写的成形術について 『日本臨床』第10巻第9号 1952. 9	1冊	41—6
616	随想第二のコースを泳ぐ 『週刊医学通信』第7年第322号 1952.11	1冊	41—8
617	外科臨床の立場から眺めた胃潰瘍 『綜合臨床』第1巻第9号 1952.12	1冊	26—43
618	最近に於ける胸部領域疾患の外科的療法の變り方に就て 『新薬と臨床』第2巻第1号 1953. 1	1冊	41—9
619	肺結核外科的治療法研究の現況 『日本臨床結核』Vol. 12 No. 1 1953. 1	1冊	41—13
620	内科的には治り難いが外科的には治り易い症例を 『結核診療室』第4巻第2号 1953. 2	1冊	41—14
621	呼吸と循環との障害についての対策 『呼吸と循環』第3巻第3号 1955. 3	1冊	26—44
622	医学の道 (赤尾好夫との対談)『学生週報』 1957. 2	1冊	41—15
623	巻頭言『外科』第19巻第10号 1957.10	2冊	26—45
624	組織移植ニ依ル成形手術ニ就テ 都築正男講述 佐世保鎮守府軍医長記	1冊	26—29
625	放線状菌症の予後『診断と治療』第16編「重要な疾患の予後」	1冊	26—12

XI 写 真

626	原子爆弾傷・重症熱傷・重症放射能傷 宇品船舶司令部撮影 1945. 8	6枚	05—1 } 05—5
627	原子爆弾災害 (広島市) 被害の前後 1945. 8	8枚	05—6
628	被爆前の広島	2枚	05—7
629	原子爆弾熱傷 (広島) 1945.11	2枚	03—12 03—19
630	組織標本 1946.11.27	3枚	05—12

都築資料目録

631	広島市庁での調査団記念写真 J. NEEL (Photograph by Signal Corps U. S. Army) 1946. 12. 6	1枚	07—12
632	原子爆弾傷熱傷 (広島・長崎) 1946. 12	2枚	02—13 02—14
633	調査スナップ	8枚	04—10 04—13 } 04—19
634	調査団・調査スナップ	13枚	04—20 04—21 } 04—24 04—27 } 04—34
635	長崎被害写真	2枚	05—9 05—10
636	組織標本	11枚	05—11
637	長崎被害写真	6枚	38—2 } 38—7
638	藻谷草土史 広島スケッチ	8枚	05—8
639	組織標本	8枚	05—15
640	原子爆弾火傷 (広島)	5枚	05—18 } 05—22
641	汽車時間表・脱毛患者・電柱 (広島)	3枚	05—35 } 05—37
642	研究発表用図表	23枚	09—1
643	被爆直後の長崎市浦上附近 (中心地) の全景 蒲原書店 (長崎) 1945. 9. 8	1枚	09—9
644	記念撮影	1枚	11—8
645	日独医薬懇談会 (記念写真) 1955. 1. 21	1枚	38—1

内 訳 の 部

20 原子爆弾災害調査研究特別委員会関係資料 (1945.11)

C. M. Wallace 宛メモ

Dr. Oughterson 宛メモ

調査症例

剖検例

参加者名簿

災害統計

研究費送付ニ関スル件

原子爆弾災害調査研究特別委員会医学的調査研究

土壤中ノ Ra 含量ニ就テ (林記)

ATOMIC BOMB CASUALTIES

都築正男宛書簡 篠井金吾

調査研究ニ関シテノ内訳書

原子爆弾災害調査特別委員会名簿ノ件

警察病院ニ紹介サレタ医者ノ名簿

169 (都築正男私的メモ・書類)

『NIPPON TIMES』(1946.4.21)

領収証

昭和二十年秋学期終了期日及冬学期開始期日ノ通知

京城帝国大学教授 秦清三郎ノ名刺

都築正男宛書簡 三谷三郎

都築正男宛書簡 今村荒男

都築正男宛書簡 雪沢千代治

都築正男宛書簡 守山隆章

都築正男宛書簡 好仁会

都築正男宛書簡 日本医療団結核課

都築正男宛書簡 喜多島健磨

都築正男宛書簡 牧生はな

都築正男宛電報

南原総長及内田前総長ノ挨拶ノ通知

都築資料目録

都築・佐々教授宛書簡 景浦尚記
メモ 2点

171 (広島・長崎調査メモ)

原子爆弾災害調査表 1枚2部
大阪市福馬区大阪帝大医学部長宛 都築正男
小宮内科 広島市被爆(症状)
原爆被害者ニ関スル調査
(アメリカ原子爆弾災害調査団来崎に伴うメモ)
長崎医科大学ノ案内図
自動車揮発油使用量報告書
(薬品・医療具のメモ) 長崎医科大学影浦内科学教室
長崎市内視察行程

It is desired that the following individuals living in the Nishiyama Reservoir area be seen

広島行動予定

Revised Schedule at Hiroshima and Kure (Dec 16-21, 1946)

Schedule at Hiroshima and Kure (Dec 16-21, 1946) planned by Dr M Tsuzuki, Dec. 16, 1946 2部

Schedule of the Survey at Hiroshima

Schedule at Hiroshima

Atomic Casualties in the Various Buildings at Hiroshima 3部

The most interesting data obtained was that on the blood studies of a large group of people living in the Nishiyama reservoir area of Nagasaki.

173 原子爆弾災害公報

大本営発表

内務省防空総本部当局談 (8. 8)

内務省防空総本部当局談 (8. 9)

呉鎮参謀長発 (8. 7)

呉鎮長官発 (8. 6)

熱傷(呉鎮教ヲ隊伊藤指揮官報告ヨリ) (8.10)

早期一般症状中注意ヲ要スルモノ(呉鎮衛第四報) (8.13)

熱傷者ノ症状(陸・中国軍軍医部) (8.11)

死因ノ考察（海軍報告）

長崎医科大学理學の療法科助教授 永井隆氏記錄

原子爆彈熱傷ノ豫後

收容患者ニ就テノ熱傷ト外傷

広島市ノ死者数（距離別）

救護状況（広島）海軍

原子爆彈ノ威力（佐世保鎮守府軍醫長報告ヨリ）（8.11）

長崎市被害状況（針尾海兵団報告ヨリ）

救護状況（広島）陸軍

岩国海軍病院收容傷者

早期死亡統計（長崎）

大村海軍病院收容者、死亡者

嬉野海軍病院收容者死亡状況

陸海軍技術運用連絡委員會記錄 昭和20年8月9日（於學士會館）

（水島教授報告）

（熊谷助教授談）

（石原中佐談）

（8—17日）學研輸血代用品班委員會

（福田助教授談）

海軍報告（11月30日）總括

原子爆彈ノ人体ニ及ボス影響

ウラン分解産物ノ放射能線ニヨル血液内白血球數調査成績（中國軍軍醫部調査）

174 新型爆彈ニ依ル長崎戰災状況ノ件報告

佐世保鎮守府軍醫長報告（昭和20年8月11日）

針尾海兵団派遣救護隊・長崎市原子爆彈被害調査報告（昭和20年9月12日）

諫早海軍病院症例 島田軍醫大尉

大村海軍病院症例 塩月正雄

諫早海軍病院 海軍々醫少佐 佐々木宏

原子爆彈ニ因ル人体損傷調査概況報告（昭和20年8月31日）

175 原子爆彈熱傷ニ就テ

広島戰災者統計 県衛生課調査

都築資料目録

- 広島戦災被害統計 8—13 中国軍管区司令部
広島戦災者統計 8—25現在 県保安課
広島原子爆弾罹災者数 米軍総司令部渉外局発表 (21. 2. 4) 『毎日新聞』
Population of the city of Hiroshima estimated officially by Mr. Morishita, Deputy
Mayor. Distribution of the population before bombing on August 5th 1945
中国軍管区部隊被害状況・陸軍 (20. 8.20) 調
広島市国民学校児童 (9月上旬調) 中学校勤労学徒 (9月上旬~10月中旬調)
広島地区戸外罹災状況調査表
比治山女学校生徒、師団司令部 = テ作業中 0.8 KM
大竹町字大竹町罹災者調 (大竹警察署長談) (11月7日現在)
熱傷多発状況ノ一例
広島第二陸軍病院職員被害調 (11—9)
広島市日本銀行支店 SE 380 m
広島市中央電話局 SE 200 m
広島市銀行クラブ SE 200 m
広島市袋町電信局 東南 0.9 KM
広島第一陸軍病院 北方 0.5 KM
移動演劇団宿舎 東方 0.7 KM
広島市中国配電 S 800 m
広島放送局 JOFK E 1.0 KM
広島逓信局 1350.m
広島日赤支部病院 S 2.0 KM
長崎地区原子爆弾災害建物別罹災者数
長崎市城山国民学校 0.4 KM
長崎市淵国民学校 1.2 KM
長崎市鎮西中学校 0.5 KM
長崎刑務所 (0.1~0.2 KM)
長崎医科大学附属医院 0.8 KM
嬉野海軍病院 = 収容セル長崎ノ原子爆弾性障碍患者 = 関スル報告
Nakashima and Ishikawa : Investigation of injuring effects upon the human body by
the explosion of atomic bomb at Nagasaki City
Kumamoto Medical College
Kyoto Imperial University. Faculty of Medicine
Survey of casualties by atomic bomb at Nagasaki, Dr Raisuke Shirabe, Nagasaki
Medical College.

176 Autopsy case (Dr. M. Miyake)

General review of path-anatomical examinations.

Consideration

Conclusion

177 Autopsy cases

陸軍軍医学校 早期剖検例 (8-8~15) (陸軍山科医少佐、海軍大野医少佐)
Hematological Study on the Atomic Bomb Disease

178 原子爆弾災害報告・調査・新聞記事

原子爆弾ノ正体ヲ衝ク(1)『毎日新聞』昭和20年9月9日

『Time』記事 The Atomic Ageヨリ

原子爆弾ノ正体ヲ衝ク(2)『毎日新聞』昭和20年9月10日

原子爆弾ノ正体ヲ衝ク(3)『毎日新聞』昭和20年9月10日

Atomic Nucleus, Fission

地上ニ於ケル γ 線分布(γ 単位トシテ) Col. S. L. Warren

爆源ノ高サ

火球ノ大サ

爆央

輻射線

熱

輻射線ノ作用

爆風

中性子強度

放射能エネルギー

Fission fragment (皆川)

西山地区住民ノ調査

高須地区住民ノ調査

火骨(鱗)ヨリ出ヅル二次性誘導放射能ニ就テ(村地孝一氏談)

放射能コトニ γ 線ノ地上分布(理研村地氏計算)

放射能ノ障害作用

Million volt x ray : Col. S. L. Warren (米国ニ於ケル生物実験)

米 Col. S. L. Warren 談

都築資料目録

原子爆彈發時地上放射能分布

『Newsweek』(1945.12.10)

『Newsweek』(1945.12.17)

『Newsweek』(1945.12.24)

『Newsweek』(1946.2.4)

『Time』(1946.2.4)

『Newsweek』(1946.2.11) (International)

『Newsweek』(1946.2.11) (Army and Navy)

『Newsweek』(1946.2.11) (From Hiroshima : A Report and a Question)

『Newsweek』(1946.2.11) (Medicine)

『Nippon Times』(1946.2.21) (新聞切抜)

(1946.2.22) (新聞切抜)

『毎日新聞』(1946.2.22) (新聞切抜)

179 (呉鎮守府報告書の筆写)

8—6 発呉鎮長官 宛呉病長海兵団長、呉工廠長、十一室廠長、呉施設部長 (信令第594号)

8—6 発呉鎮長官 宛呉海軍病院、賀茂海軍病院長 信号第597号

8—6 発呉鎮長官 宛呉海軍病院長 (信令第596号)

8—6 発呉鎮參謀 宛呉警備隊、呉海兵団、呉軍需部、呉運輸部 (信令第598号)

8—7 発呉鎮參謀長 宛部下一般 (電話13号)

(信電令第73号) 発呉鎮長官 宛部下一般

8—7 発呉鎮參謀長 宛部下一般

八月六日広島空襲被害状況並ニ対策 (呉鎮守府衛生部)

八月六日広島市空襲戦訓 (第三報) (呉鎮守府衛生部)

8月6日広島市空襲戦訓 (第四報) (呉鎮守府衛生部)

陸海軍合同特殊爆彈研究会決定事項 (要項抜粋) (呉鎮守府衛生部)

広島派遣救護隊任務報告 昭和二十年八月十日 呉鎮守府広島派遣救護隊指揮官 伊藤實

181 西山調査関係

The Report of the 3rd General Meeting of the Special Committee for the Investigation of the Effects of the Atomic Bomb.

Summarized Results of the Blood Counts of the Nishiyama People (Dr. Ishikawa and Lt. Block)

Inhabitants at Nishiyama, Nagasaki Date of Examination : 14/II~2/III 1947, Hideo Irie, Just of Radiology, Medical Faculty K. I. V. Fukuoka

Diseases of the thyroid glands.

Report of a Conference on Vital Statistics (24, May, 1947, 1600-1800) (at Dr. Koyano's home Nagasaki)

The American Atomic Bomb Casualties Comission has been working in the survey of the Nagasaki people who was bombed, since 8 May, 1947, with the aids of Japanese physicians of the Nagasaki Madical School. The survey will continue untill the end of May.

Nakao's Family (Dr. Ishikawa Kyushu Imp Univ 1946, 1. 21)

The Influence of the remained Radioactivity upon the Inhabitants of Nishiyama District. Nagasaki (The 2nd Report)

Differential counts of the White Blood Cells (Nishiyama Districts, Nagasaki)

Differential counts of the Leucocytes

電報

LARGEST LACQUER FACTORY in Japan

メモ

地図

183 (調査・研究メモ)

広島戦災被害統計

長崎戦災被害統計

広島地区戸外ニ於ケル原子爆弾災害罹患状況

広島地区建物別原子爆弾災害罹患状況

長崎地区建物別原子爆弾災害罹患状況

原子爆弾災害罹患患者死亡状況

広島災害 東大診療班調査 (梶谷氏)

広島及び長崎地区災害調 (増山氏)

長崎医大 古屋野氏手記抜 (序言中)

遮蔽問題 (村地、村井)

遮蔽問題 (羽田野)

原子爆弾ニヨル災害分布

原子爆弾災害調査研究報告

都築資料目録

原子爆弾災害調査研究ノ過程ヲ顧ミテ
原子爆弾熱傷ニ就テ
原子爆弾災害調査研究報告（昭和21. 2. 28）
原子爆弾ニヨル災害

184 学研原爆災害調査研究特別委員会書類・学術体制刷新委員会書類

研究書ノ配布先

都築正男宛（謄写印刷1枚）学術体制刷新委員会・委員長兼重寛九郎

学術体制刷新委員会会則

学術体制刷新委員会議事規則

学術体制刷新委員会委員名簿

学術体制刷新委員会地方連絡委員会規則

学術体制刷新委員会地方連絡委員会委員名簿（関東）

関東地方連絡委員会第一回会合について（昭和二十二年九月二十七日）

355 原子爆弾後障害研究会

広島駅発列車時刻表

原子爆弾後障害研究会 講演及び順序

観光案内（広島バス株式会社）

観光案内（広島市産業局観光課）

宮島 観光案内（宮島観光案内）

観光視察について

文献 Atomic Bomb Casualty Commission（遺伝・白血病）

英文メモ（手書）30枚

380 （研究経過・計画）

原水爆被害に関する総括的研究 木村毅一

来年度の研究計画 九大 入江英雄

書簡1枚 大阪市大医学部 生物物理 松本一男・古久保俊子

研究経過報告書提出について 長崎大学医学部眼科教授 広瀬金之助

研究経過報告書 総合課題原水爆被害に関する総括的研究

来年度の研究計画書（東大理）斎藤信房

原爆被爆者個人調査表

健康調査表

413 原子爆弾災害調査研究

原子爆弾災害調査研究

研究組織 代表者 塩田廣重

耳鼻咽喉科領域に於ける原爆後遺症 協力研究者 長崎大学医、耳鼻咽喉科、教授 後藤敏郎外 7 名

原爆放射能の人類口腔領域に及ぼす影響（第 2 回報告）協力研究者 長崎大学医、歯科講師 富崎利親

原子爆弾による視器障害の調査 班員 長崎大学医、眼科教授 広瀬金之助 協力研究者 長崎大学医、眼科 徳永次彦

原爆熱傷瘢痕に対するクラウゼ氏植技術の統計的観察補遺 班員 広島通信病院院長 蜂谷道彦 協力研究者 広島通信病院外科 土井達郎、月藤春雄

原爆被爆虫垂炎患者の白血球数に就て 班員 広島通信病院院長 蜂谷道彦 協力研究者 広島通信病院外科 安原宏

原子爆弾被爆者の自律神経機能に就て 班員 広島通信病院院長 蜂谷道彦 協力研究者 広島通信病院外科 勝部玄、太田信吾

被爆による母体環境の変化が胎生期臓器形成に及ぼす影響について 班員 長崎大学医病理、教授 林一郎

広島に於ける原爆被爆者の副腎機能 班員 広島通信病院院長 蜂谷道彦 協力研究者 広島通信病院内科 藤井崇

被爆者後遺症の調査、特に血液学的所見に関する調査研究 班員 熊本大学医、内科教授 河北靖夫

長崎市在住原子爆弾被爆者の血液像に就て 班員 九大医、放射線治療科教授 入江英雄

原子爆弾症後遺症の精神神経病的症例研究 班員 広島医科大学教授 小沼十寸穂

原子爆弾被爆者の調査並に臨床的検査 班員 京大医、教授 菊池武彦

原爆被爆者（大竹町在住者）調査報告 外科的方面—第 2 回報告 班員 広島医科大学教授 河石九二夫 協力研究者 広島医大助手 藤浪武、宇根本政之

原爆被爆者（大竹町在住者）の臨休的観察 広島医科大学学長 河石九二夫 教授 浦城二郎

原爆 8 年後に調査したる大竹町在住被爆者の総合調査—血液学的所見（第 2 報） 班員 広島大学医学部教授 渡辺漸